

2017 (H29) 年度学生実態調査報告書

1. 目的

本稿の目的は2017年9月に実施された本学（九州情報大学）の学生に関する実態調査の結果の概要をまとめることである。本調査の目的は、学生の実態を具体的に把握し、それに基づき、本学の教育システムをよりよく改善することにある。

本調査は大きく次の5テーマからなる。

- [1] 授業について
- [2] 大学教育への評価
- [3] 卒業後の進路
- [4] 日常生活について
- [5] その他

第1のテーマでは、授業全般に関して学生がどのような態度で参加しているのか、また、受講した授業を全体的にどのようにとらえているのかについて7問の質問をしている。第2のテーマでは、学生にとって本学の授業がどのように役立っているのかを中心に学生の判断を4問求めている。第3のテーマでは、学生がどのような希望や展望をもっているのかについての質問を4問行っている。第4のテーマでは、学生の日常生活の状況を4問質問している。最後に、全般的な感想の他、学生の意見を自由記入形式で求める質問が3問設定されている。

以下、本稿は次のように構成される。次の第2節では回答者の概要を示す。本アンケート調査は、1年生と3年生を対象に行われており、入学して半年経った時点での学生の実態と、大学生活も半分を過ぎ、大学生活に慣れると同時に自分の将来が気になる時期の学生の実態を把握できることが期待される。第3節では、回答結果を具体的に見ていくことにより、学生の実態の理解を深める。第4節では、本調査全体を展望し、学生の実態に関して、どのように理解が深まったのかを振り返る。また、本調査の課題などを検討する。最後に、付録として、本調査の質問項目を示す。

2. 回答者の概要

本アンケートへの回答者は71(160)¹名であった。その内訳は以下の通りである。

¹ カッコ内は昨年度（2016, H28）のデータを示す。以下同様。

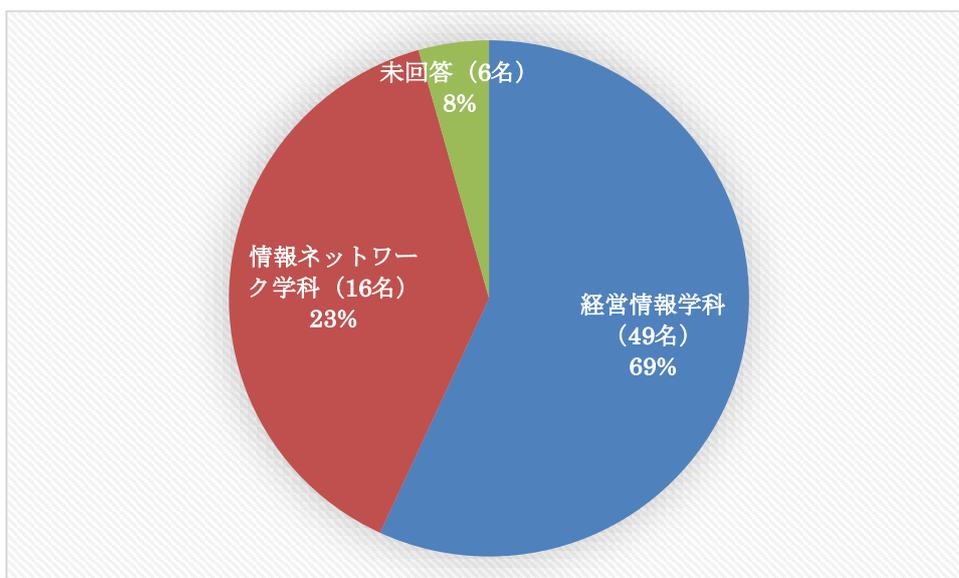


図 2-1. 学科別の回答者数と割合

図 2-1 に示すように回答者 71 名中 69%(57%)は経営情報学科に属し、23%(39%)は情報ネットワーク学科に属している。残り 8% (4%) は無回答であった。

学年別にみると 1 年生の回答者が 16 名、23% (85 名, 54%)、3 年生が 54 名、77% (24 名, 27%) とほぼ 1 対 3.3 の割合となっており、昨年度と比較すると、今年度は 3 年生の割合がより大きくなっている。

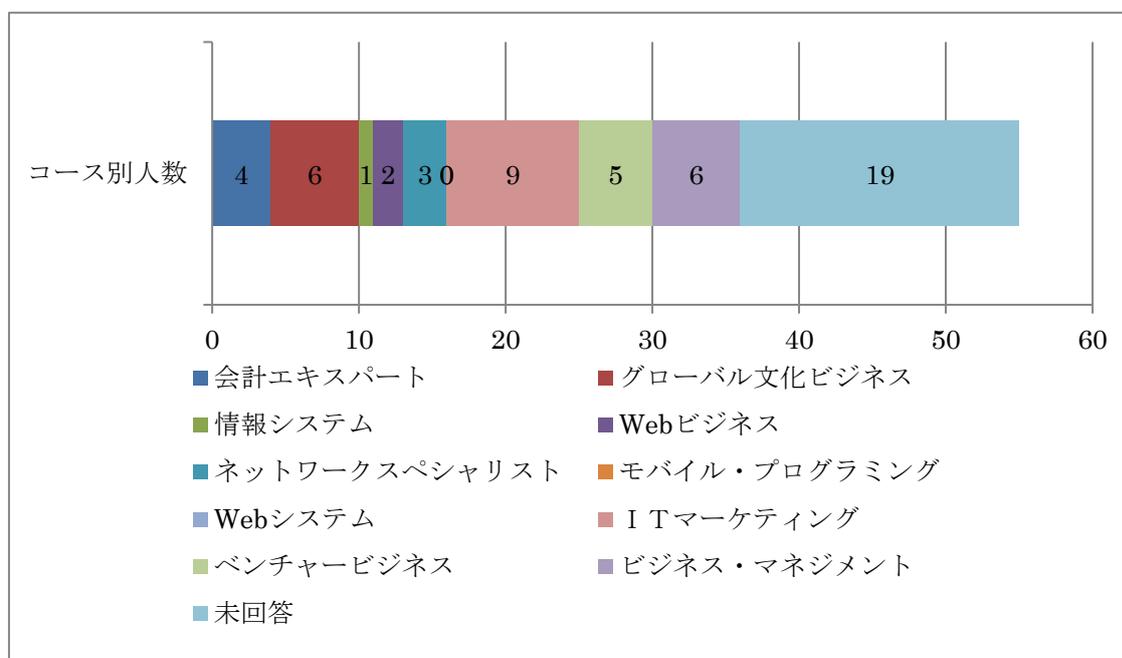


図 2-2. コース別の回答者数の割合 (3 年生)

図2-2にコース別の回答者数を積み上げグラフで示す。1年生はコースの選択を行っていないため、3年生のみのデータとなっている。

回答者54名中19名、35%(32%)もの回答者がコース名を回答していないため、コース別の正確な分析はできない。回答した学生の中では、経営情報学科のITマーケティングコース所属の学生が9名、17%(4名、6%)と最も多い。同率で2番目に多いのがビジネスマネジメントコースとグローバル文化ビジネスコースの6名、11%(前年どの実績はビジネスマネジメントコース14名、19%、グローバル文化ビジネスコース5名、7%)であり、この傾向は昨年度とは異なっている。

出身別の内訳を図2-3に示す。日本人学生52名、73%(91名、58%)に対して日本以外からの留学生は全体で19名、27%(69名、41%)となっている。

日本以外と回答した学生の内訳をみると、留学生19名中、中国とネパールが6名、8%(前年度では中国33名、21%、ネパール4名、2%)と同率で最も多く、それに引き続き韓国3名、4%(12名、8%)などとなった。昨年度と比較すると中国、韓国からの留学生が減り、ネパールからの留学生が増加している。また新たにインドやモンゴルからの留学生が加わった。多国籍化、多文化化が進んだとも言え、今後これらの留学生への支援を充実させることが課題となろう。

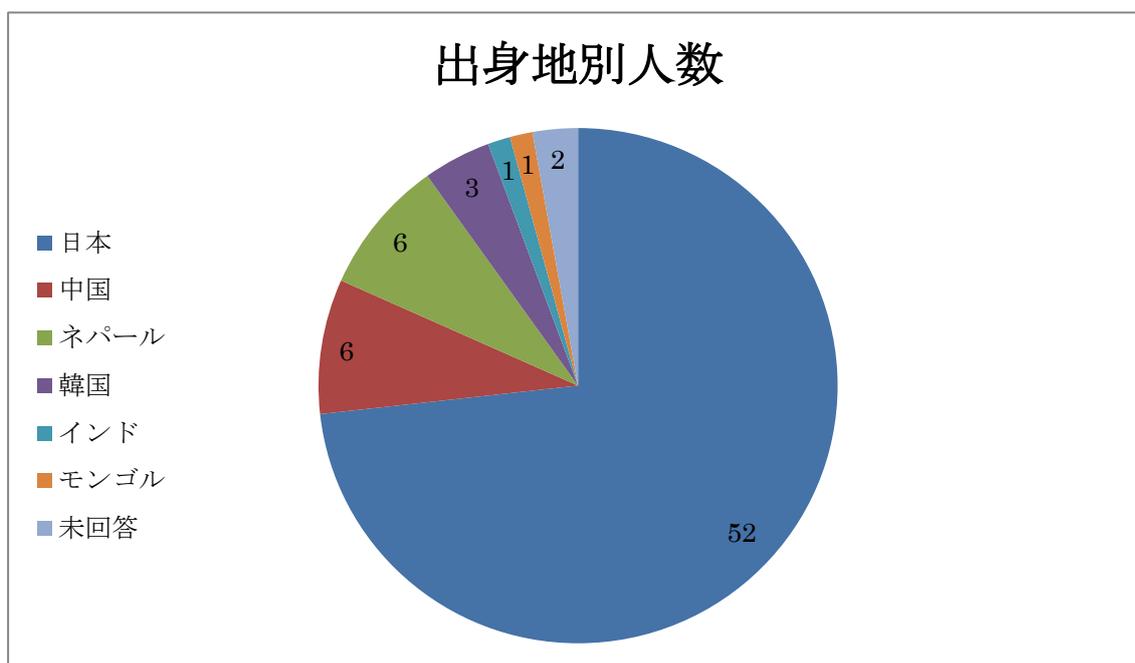


図2-3. 出身地の内訳

3. 回答結果

本節では、各質問項目への回答状況を見る。質問全体は、授業に関するもの、教育に関するもの、進路に関するもの、進路に関するもの、生活に関するもの、その

他と5つのグループから構成されている。

3.1. 授業に関する質問

問1 大学に入ってから次のような経験はありますか、またそれは有用でしたか。

本問は次の4つの項目についての経験の有無と経験している場合の評価を求めている。

- 入学時、各学年初め、学期初めのオリエンテーション
- 高校での未習科目を学ぶための補修的な科目や大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学ぶ科目(大学基礎総合、コミュニケーションと自己発見など)
- 就職や将来のキャリアをテーマとした科目(キャリアデザイン入門、キャリアデザインなど)
- インターンシップ（教育実習や工場実習を含む）

経験した場合の選択肢は、

1. 有用ではない
2. どちらともいえない
3. 有用
4. 非常に有用

の4つである。

本問に対する回答結果を図3-1に示す。

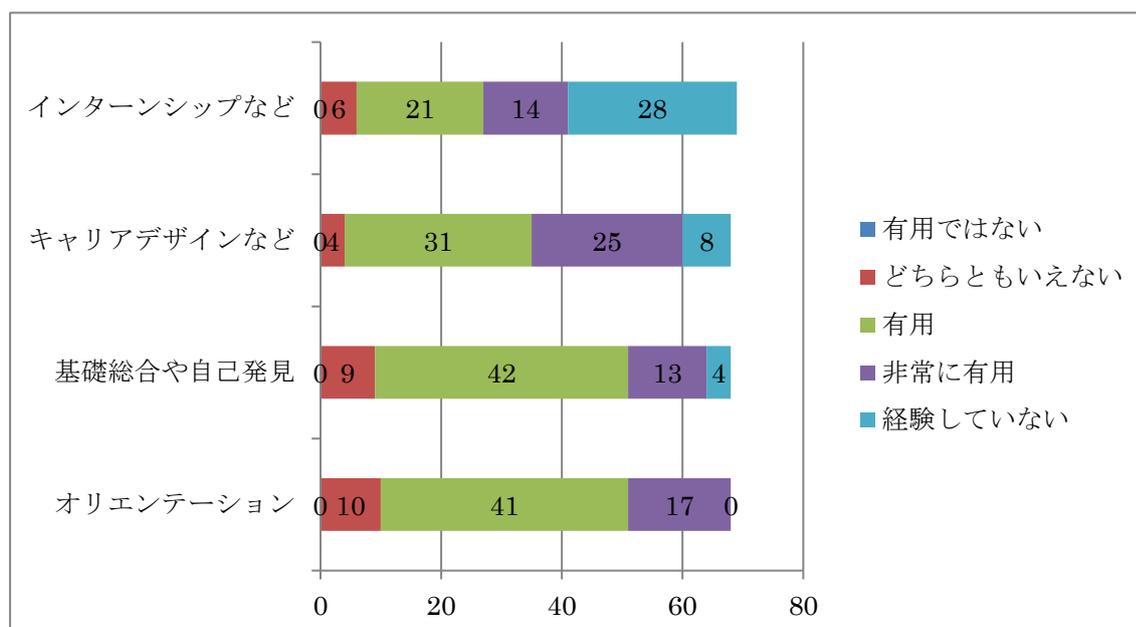


図3-1. 経験に関する回答結果

オリエンテーションと補習的科目に関しては、学生達は概ね出席している。経験している学生の評価として、ほとんどの学生が有用もしくは非常に有用と評価している。今後、経験をどう生かすべきかに関する指導にもっと力を入れることが引き続き求められるだろう。

問2 あなたにとって意味があったと思う授業を思い出してください。

本問は、学生にとって意味があった、有用であった、と感じられる授業がどのようなものであるかに関して学生自身の認識を問うものである。問はA, Bの2つに分かれ、Aでは、割合を、Bでは特徴を求めている。

A. それはこれまで受けた授業の何割くらいですか。基礎総合科目、専門教育科目の別にお答えください。

本問の回答結果を図3-2に示す。

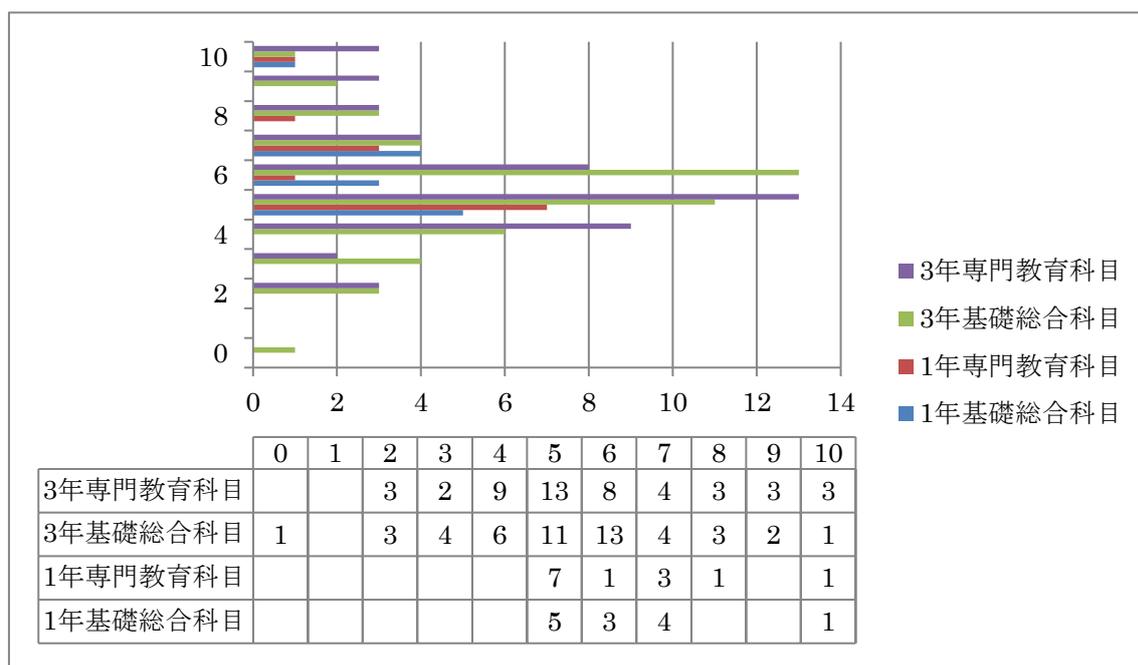


図3-2. 意味のあった授業の割合別の人数分布

本問への回答は基礎総合科目、専門教育科目のいずれの場合も5割という回答への頻度が大きい。

B. それらの授業にあてはまる特徴はどんなことですか (〇はいくつでも)。

本問は学生が「意味があった」と考える、その中身に関する質問である。基礎総合科目、専門教育科目毎に、次のいずれに該当するかを複数選択項目による回答を求めている。

- 最先端の研究成果を披露してくれた
- 確実に学問の基礎を教えてくれた
- 社会や現実との関わりから学問の意義を教えてくれた
- 将来に役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた
- 資格の取得に役立つ情報やテクニックを教えてくれた
- 教え方がうまかった
- 自分自身や将来やりたいことを考えるきっかけになった

その結果を図3-3に示す。

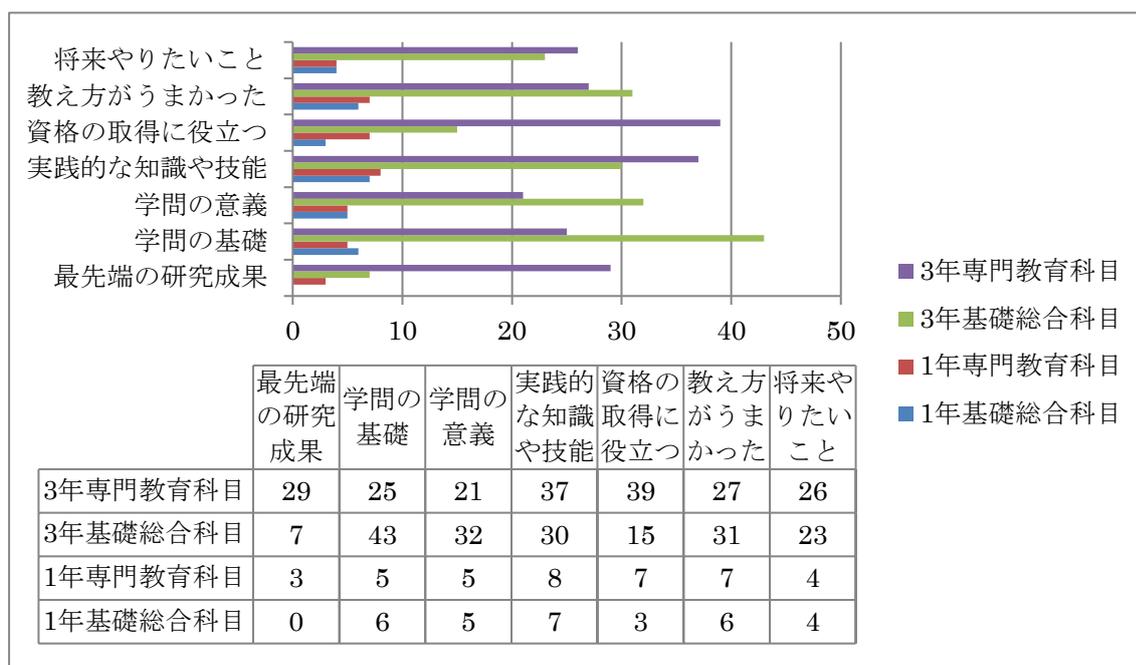


図3-3. 意味があった科目の特徴の選択数の割合

図3-3によると、基礎総合科目においては、両学年ともに「確実に学問の基礎を教えてくれた」が最も頻度が高い。それに引き続き、「学問の意義」、「教え方がうまい」という項目が多く選ばれている。

一方、専門教育科目においては、全体的に実践的な知識や技能、資格の取得に役立つ、将来やりたいことや最先端の研究成果の項目が選ばれている。専門教育科目に対しては、資格や実践力など、将来直ぐに役立つような知識や技能の教育が評価

されている。その一方、最先端の教育成果の披露も評価されており、学んだことが直接役立つような知識・技能だけではなく、より幅広く学びたいという気持ちが見て取れる。これらの傾向は、昨年度の調査と同様であった。

問3 これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

本問は、授業形態に関する学生の認識を求めるものである。全体が10割にならない回答に対しては、合計に対する割合として補正してある。

授業形態は、次の6種に分類されている。

- (100人以上) 講義
- (50人以上 100人未満) 講義
- (20人以上 50人未満) 講義
- (20人未満)
- 演習・ゼミ
- 実験・実習

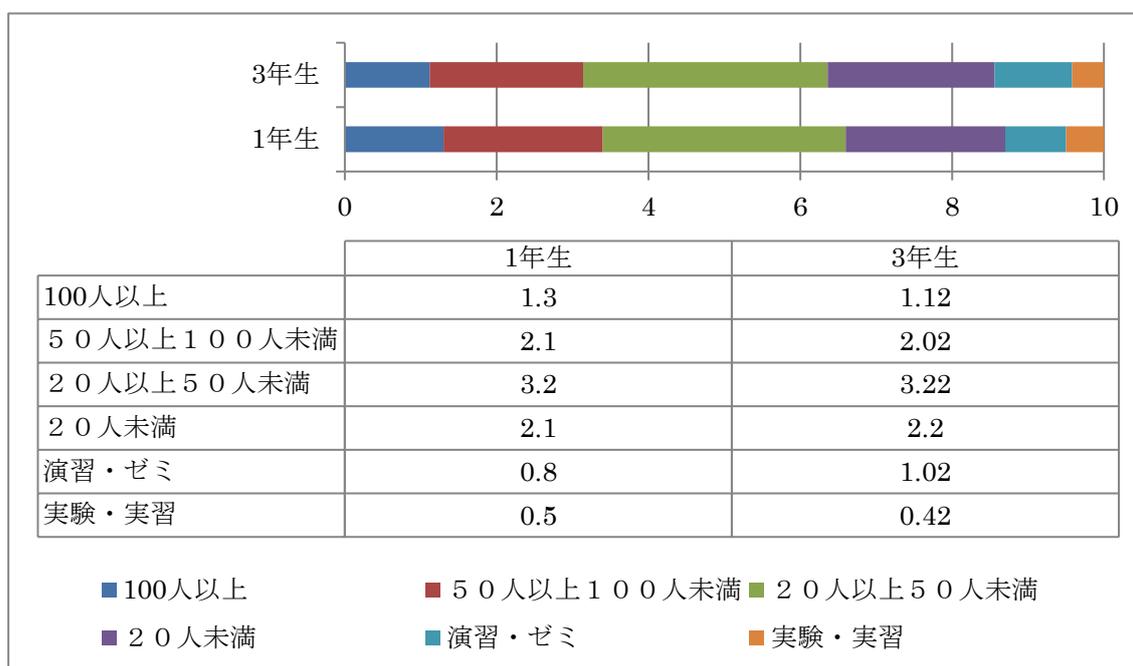


図3-4. 講義形態への回答数の割合

本問への回答結果を図3-4に示す。学生からの回答によると、20人以上50人未満の講義が最も多く、それに続いて20人未満の講義、50人以上100人未満の講義が多かった。少人数制の講義が増加している傾向がある。

問4 これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。またそれは、必要ですか。

本問は、授業スタイル（あり方）に関して、どの程度経験したか、その必要性はどうかに関する質問項目である。授業スタイルに関しては、次の6項目が設定されている。

内容：

- 授業内容に興味をわくよう工夫されている
- 理解がしやすいよう工夫されている
- 出席が重視される
- 最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される
- 授業中に自分の意見や考えを述べる
- グループワークなど、学生が参加する機会がある

これらの質問に対して、回答は次のようになっている。

経験について：

1. ほとんどなかった
2. あまりなかった
3. ある程度あった
4. よくあった

必要性について：

1. 必要ではない
2. ある程度必要
3. 非常に必要

本問に関する回答結果（評価の平均値）を図3-5に示す。経験に関しては、全体的に2.5から3.5の範囲になっている。すなわち、「あまりなかった」以上、「ある程度あった」未満という回答結果になっている。その中で、出席が重視される授業が最大値となっており、本学では出席の有無が重視されていると学生が感じていることを示している。逆に最も値が低いのは「授業中に自分の意見や考えを述べる」や「グループワークなど、学生が参加する機会がある」への経験である。本学におけるアクティブラーニング推進のために、学生の意見を求める授業スタイルの強化が必要であることを示唆している。

一方、必要性に関しては、値が大きいのは、最初の3項目、すなわち、「興味をわくような授業の工夫」や「理解しやすい工夫」、そして、「出席重視」が学生達に

とっての要望である。また、いずれの項目においても1年生より3年生の方が必要性を感じていない傾向にある。現3年生が1年生時における調査結果と比較すると、現1年生とはいずれの項目も有意な差はなく、現3年生とは「出席重視」と「グループワークなど、学生が参加する機会がある」の項目において有意に低い値となっていた($p = 0.005$, $p = 0.01$)。この結果より、入学から2年を経過し授業に対して積極的に参加する意欲が低下し、本来専門的な教育に入る3年次ではあるが、卒業の為の作業としての単位取得に走っているものと考えられる。

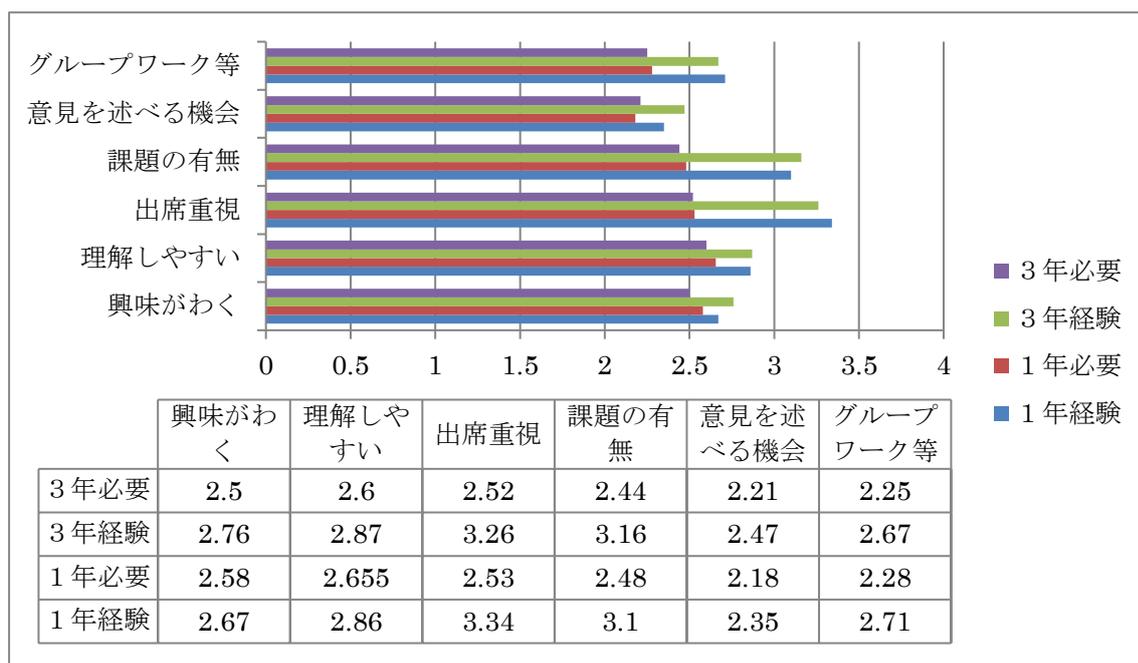


図3-5. 授業スタイルに対する経験と必要性についての回答結果（必要性に関しては最大値3での平均値）

問5 あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

本問は、授業に対する学生自身の取り組みを問うものである。次の5項目に関して、4つのレベルでの回答を求めている。

評価内容：

- 興味のわからない授業でもきちんと出席する
- なるべく良い成績をとるようにしている
- グループワークやディスカッションに積極的に参加している
- 先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている

- 必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる

評価のレベル：

1. あてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. ある程度あてはまる
4. あてはまる

図3-6に評価結果（平均値）を示す。出席に関しては、両学年とも3を超えており、授業へは出席しようとしている傾向にある。それに対して、評価値が低いのは、質問や相談、そして、予習・復習である。本学の学生において、積極的な学習態度や自ら学ぶという意識や行動に課題があることを示している。

出席以外の項目において1年生より3年生が低い傾向にある。前項目同様2年前に現3年生が1年生の時と比較した結果、現1年生とはいずれの項目も有意な差はなかったが、現3年生は「良い成績をとるようにしている」および「予習・復習をして授業にのぞんでいる」の項目で有意に低い値となっていた ($p = 0.04$, $p = 0.01$)。前項目同様入学時にはあった学習意欲が2年の間になくなって来ていると考えられる。

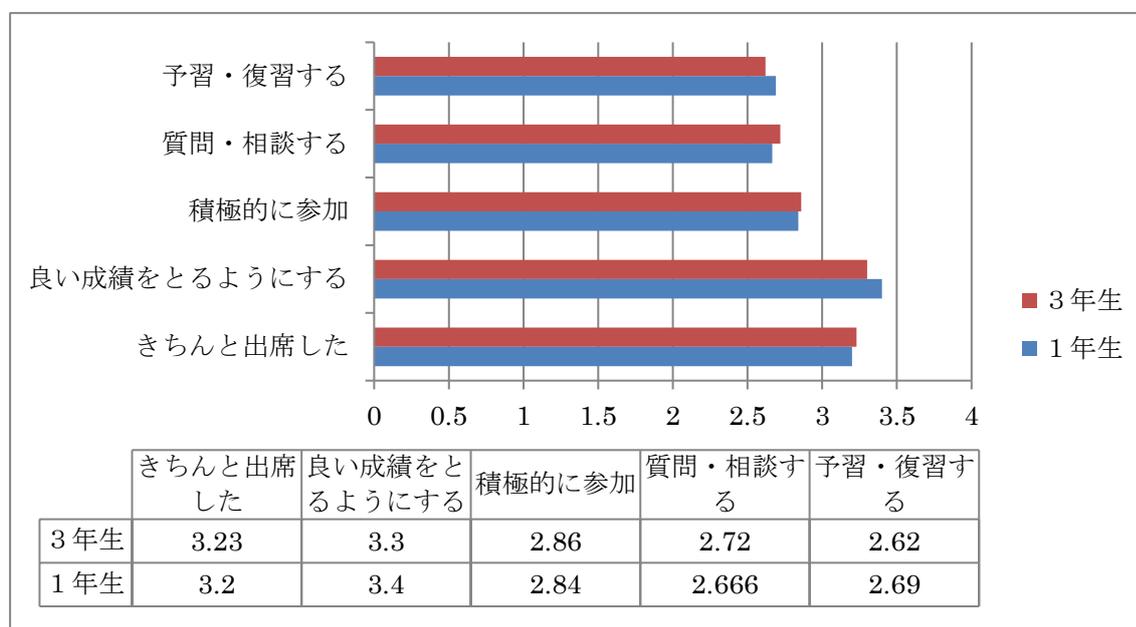


図3-6. 授業への取り組みに関する学生の自己評価

問6 大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

本項目は、大学での学びに関する学生の考えを問うものである。質問項目は A の項目と、その対極に当たる B 項目を提示し、どちらに近いかを選ぶようになっている。

A 授業はとり方があらかじめ決まっている方がよい

B 授業は自分で好きなようにとりたい

A 授業の意義や必要性を教えて欲しい

B 授業の意義や必要性は自分で見出したい

A 授業の中で必要なことは全て扱って欲しい

B 授業はきっかけで、後は自分で学びたい

A 自分のレベルにあった授業をして欲しい

B 授業は難しくてもチャレンジングな方がいい

A 専門以外のことも広く学びたい

B 専門分野を深く学びたい

回答は以下の4項目からの選択となる。

1. Aに近い

2. ややAに近い

3. ややBに近い

4. Bに近い

本問に対する回答結果を図3-7に示す。

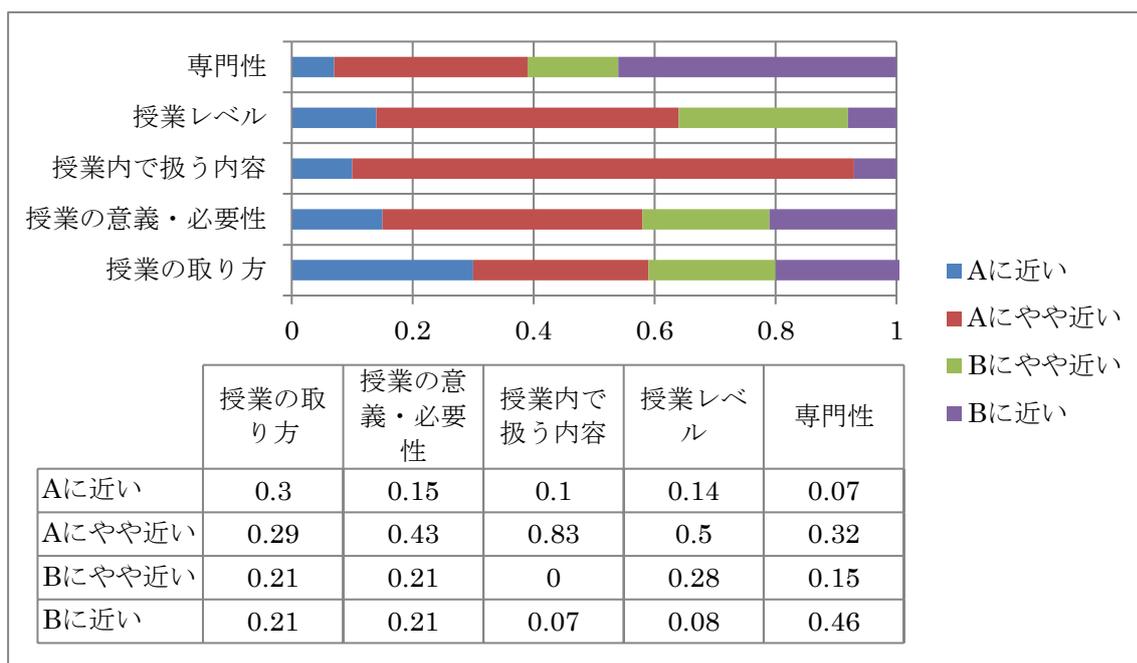


図 3-7 (1). 大学での学び方に関する意識への回答結果(1年生)

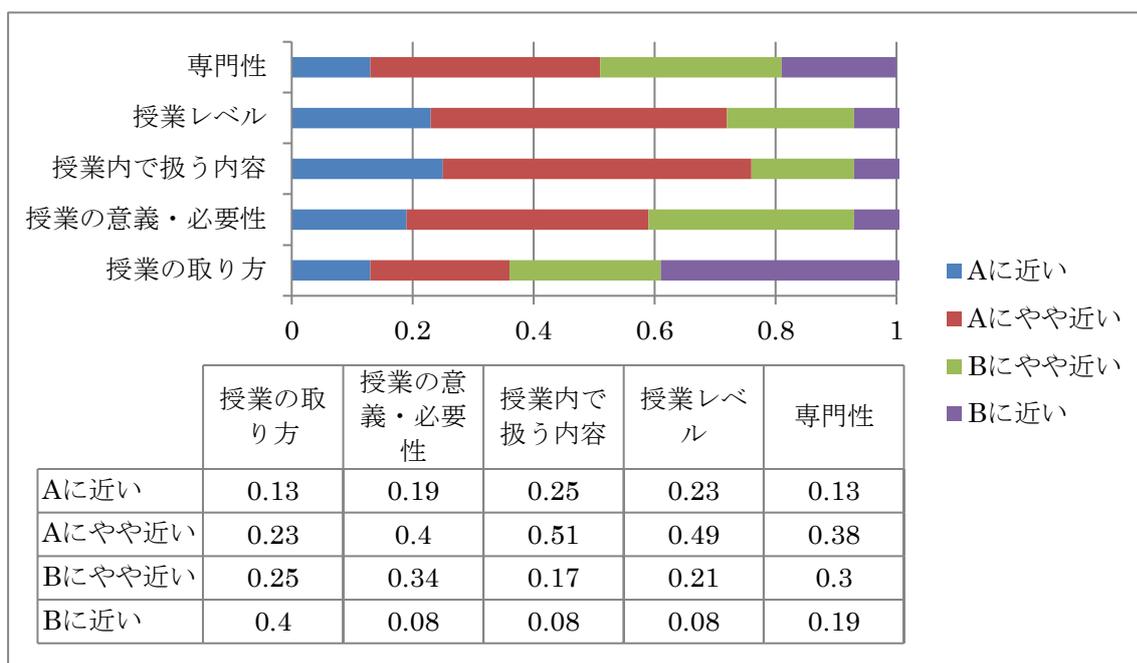


図 3-7 (1). 大学での学び方に関する意識への回答結果(3年生)

1年生については、A寄りの結果となったのは、授業の意義や必要性を教えてほしい、必要なことは全て扱って欲しい、自分のレベルにあった授業をして欲しい、専門以外のことも広く学びたいという項目であった。また、3年生において、B寄りの結果が出たのは、1年生と比べると授業の必要性は自分で見出したい、授業は難しくてもチャレンジングな方がいいと答える学生の割合が多い傾向にある。中

でも、授業は難しくてもチャレンジングな方がよいと答える学生の割合は2年前の1年次の際よりも有意に増えており、2年間の学習によって、より難しい授業にチャレンジしたいという意欲が湧いていると考えられる。その他の項目や現1年生との比較においてはいずれも有意差はなかった。

授業の取り方に関しては、あらかじめ決まっているよりも、自分で好きなようにとりたいという考えが優勢であり、3年生ではより顕著に表れている。この結果は、昨年度と同様の傾向を示しており、学生の要望であると捉えることができる。

問7 あなたの成績について教えてください。

本問は、学生が自分の成績をどのように認識しているのかを問う設問である。

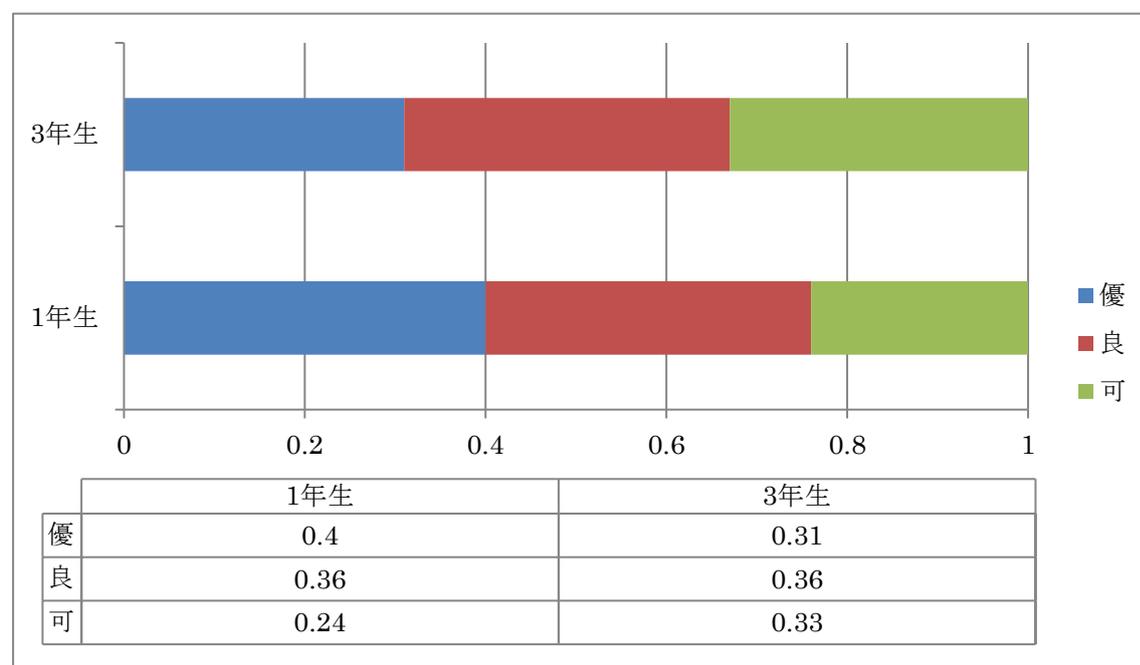


図3-8. 成績に関する学生の自己認識

成績に関する学生の自己認識への回答結果を図3-8に示す。学生が自己判断した優、良、可の別にどの程度の割合結果については、1年生40%、3年生31%（昨年度は1・3年生平均で39%）が優であり、良36%（1・3年生ともに36%。昨年度は1・3年生平均で31%）、1年生可24%、3年生可33%（昨年度は1・3年平均で24%）となっており、1年と3年とでは結果がかなりの違いが出ている。また、本結果は、実際の成績というよりも願望も交えた認識値であるとみなすのが妥当であると考えられる。この割合に関して、昨年度と異なる傾向が見られる。

3.2. 教育に関する質問

本項目は大学教育への評価を問うものである。

問8 次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

本問は、大学の授業に関する9項目に対して、これまでの授業経験がどの程度役立っているか、そして、それに対する自分の実力はどの程度なのかへの回答を求めるものである。

質問項目は以下の通りである。

- 将来の職業に関連する知識や技能
- 専門分野での知識・理解
- 専門分野の基礎となるような理論的理解・知識
- 論理的に文章を書く力
- 人にわかりやすく話す力
- 外国語の力
- ものごとを分析的・批判的に考える力
- 問題をみつけ、解決方法を考える力
- 幅広い知識、ものの見方

各質問項目に対して、授業経験および自分の実力に関して次のような項目から回答を選択する。

これまでの授業経験：

1. 全く役立っていない
2. 少しは役立っている
3. 役だっている
4. 多いに役立っている

自分の実力：

1. 不十分
2. やや不十分
3. やや十分
4. 多いに十分

本問に対する回答結果を図3-9に示す。

問8 次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

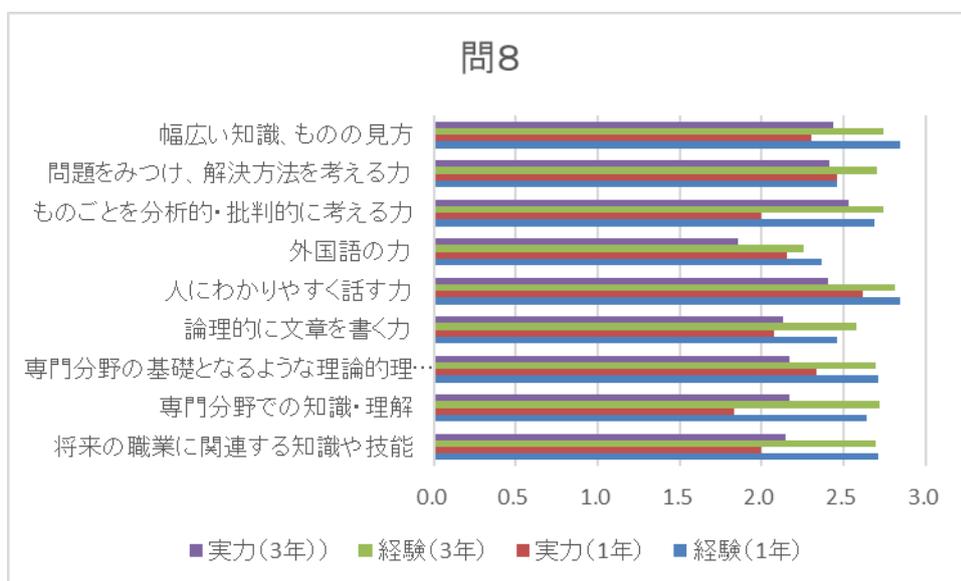


図3-9. 大学の授業が学生にどの程度役立っているかに関する回答

授業経験に関しては、各学年ともに全ての項目で概ね2.5から3の範囲の値であり、「2. 少しは役立っている」と「3. 役立っている」の中間の評価となっている。もっとも評価が低いのは、「外国語の力」であり、学年を追うにしたがって外国語の力をもっと身に付けたいと感じていると考えられる。

自身の実力に関しては、1年生が1.8から2.5の間で、「やや不十分」と自己判断しているのに対し、3年生の評価値は「幅広い知識・ものの見方」、「ものごとを分析的・批判的に考える力」、「論理的に文章を書く力」、「専門分野での知識・理解」、「将来の職業に関連する知識や技能」において、1年生よりも高い値を取っている。したがって大学が目指す学士力の獲得に授業が一定の役割を果たしていると考えて良いかも知れない。昨年の調査においては、3年生は全項目において評価値が1年生よりも低い値を取っていたことから考えると、より良い結果であるといえるのではないだろうか。「問題を見つけ、解決方法を考える力」は1年生と3年生がほぼ拮抗し、「外国語の力」、「人にわかりやすく話す力」、「専門分野の基礎となるような理論的理解・知識」は1年生の自己評価の方がより高い結果となっているが、ソクラテスの言う「無知の知」の考え方にもあるとおり、様々な知見を重ねた人間の方が己の足りない部分を知ることができるのであるから、この結果を以ってこの部分は3年生の力が足りない結論付けるのは、やや拙速とも

考えられる。学生の自己判断になんらかの客観的な外部評価を組み合わせなければ、なかなか判断が難しいところである。

問9 あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

本問は、本学について、授業以外の8項目に関する評価を質問している。質問項目は以下の通りである。

- 授業外での教員との接触（オフィスアワー、ゼミを含む）
- 図書館などの学習施設
- 実験・実習などのための施設
- 就職指導（CDC）
- 就職指導（ゼミ教員）
- 学習・生活面でのカウンセリング
- 学習以外の大学での経験
- 大学生活全般

回答は次の4つから選択する。

1. 不満
2. ある程度不満
3. ある程度満足
4. 満足

本問への回答結果を図3-10に示す。例年通りの傾向が見て取れ、1年生はいずれの項目に関しても評価値は「3. ある程度満足」以上の値をとっているが、3年生は全項目に関して1年生より満足度が低い結果となっている。学生の満足度が最も高いのは、1年生、3年生ともゼミ教員やCDCによる就職指導やカウンセリングである。就職指導に関しては両学年ともにCDCと教員いずれも3を超える評価値となっており、多くの学生が満足していると思われる。3年生は授業外の教員との接触においても満足度が高い。逆に評価値の低い項目としては、1年生は「学修以外の大学での経験」「実験・実習などのための施設」、3年生は「大学生活全般」、「実験・実習などのための施設」である。3年前から比較しても、1年生の実験・実習施設においては低い評価値となっている。3年生においても、図書館などの学習施設、実験実習施設において低い評価値が続いており、本学の施設および心のケアに関する不満が継続して増加していると考えられる。

問9 あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

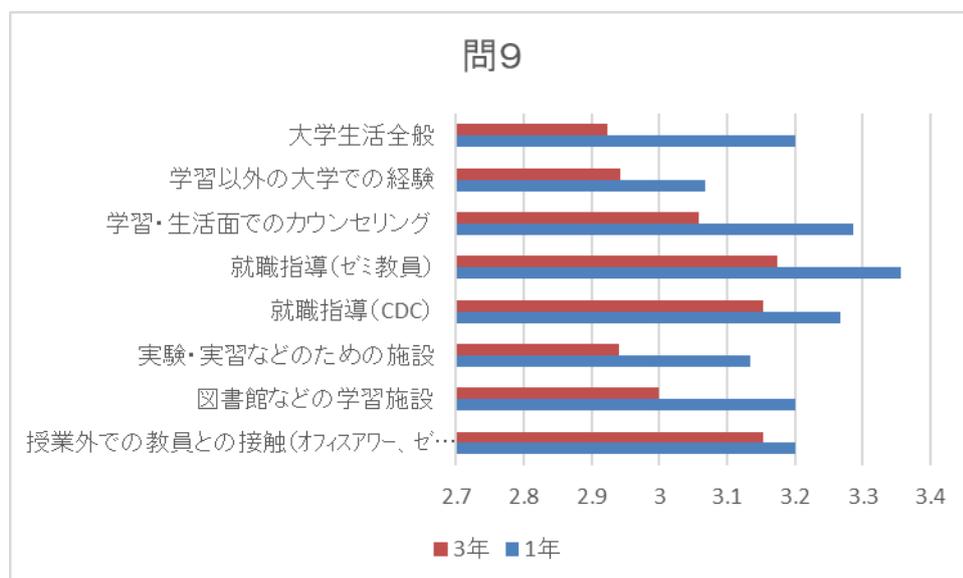


図3-10. 大学に対する満足度の回答結果

問10 大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

本問は、7つの目標を示し、それらが、学生にとってどの程度重要であるかを回答するよう求めている。回答を求めた目標は次の通りである。

- 将来の仕事に活かせる能力を身につける
- 資格試験・公務員試験などに合格する
- 専門分野の知識・理解を深める
- 広い教養、ものの見方を身につける
- 自分の将来の方向をみつける
- 社会人になるまでの時間をエンジョイする
- 有意義な人間関係を築く

これらに関する評価の選択肢は以下の通りである。

1. 重要でない
2. 少し重要
3. ある程度重要
4. 重要
5. 最も重要

本問に対する回答結果を図3-11に示す。両学年ともにすべての項目において、評価の平均値は3.5以上となっている。したがって、学生が全ての項目をある程度以上重要だと感じていることがわかる。もっとも値が大きいのは、両学年ともに「将来の仕事に活かせる能力を身につける」であり、「4. 重要」以上と評価されている。次が「自分の将来の方向を見つける」となっており、更に「有意義な人間関係を築く」と続く。全項目において両学年とも3年前の1年生とは有意差はなかった。「大学在学中には将来の方向性を見定め、それに備えた能力を身につけたい」という学生の意識が表れている。

問10 大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

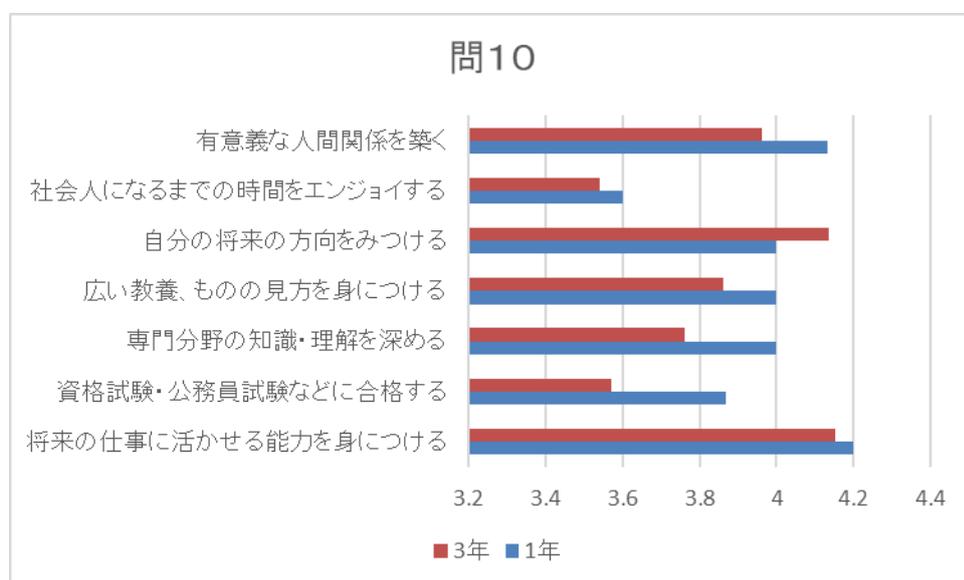


図3-11. 大学在学中の目標としての重要性

問11 大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

本問は、大学の授業がどの程度学生の将来に関連しているかに関する学生の意識を知るための設問である。次の3つの項目に関しての評価を求めている。

- 卒業後にやりたいことは決まっている
- 大学での授業はやりたいことに密接に関わっている
- 授業を通じてやりたいことを見つけたい

これらの項目に対する回答の選択肢は以下の通りである。

1. 全くあてはまらない
2. あまりあてはまらない
3. ある程度あてはまる
4. よくあてはまる

本問への回答結果を図3-12に示す。いずれの評価値も2.5から3の間である。すなわち、「2. あまりあてはまらない」と「3. ある程度あてはまる」の間であり、どちらかというところ「ある程度あてはまる」という結果となった。特に、「授業を通じてやりたいことを見つけたい」という項目が両学年ともに一番高い評価値をとっており、学生の授業への期待と見ることができる。いずれの項目においても3年前の1年生との差はなく、全体の傾向としても昨年と同様であった。

問11 大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

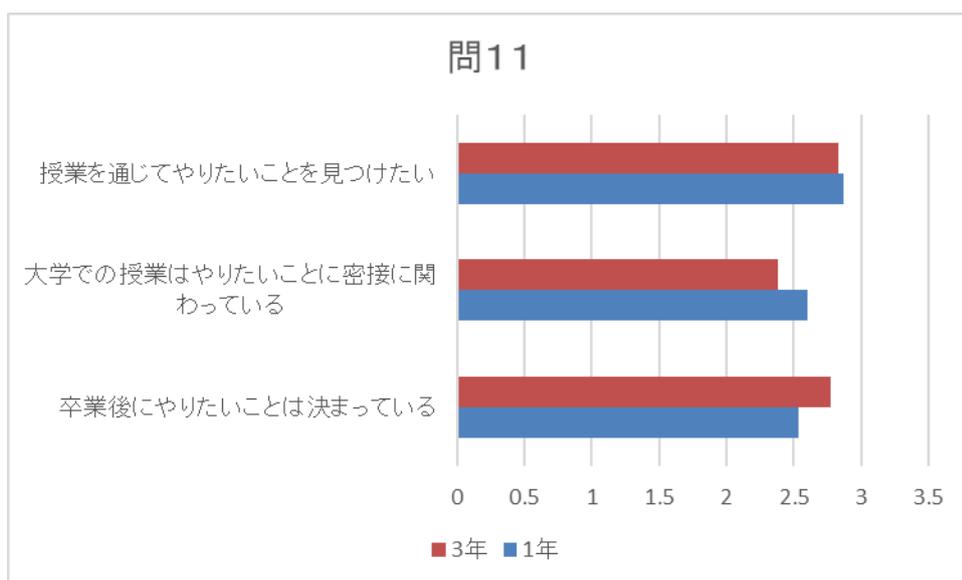


図3-12. 大学授業と学生への関係

3.3. 進路に関する質問

本質問項目は、卒業後の進路に関する希望や考えを問う項目である。

問12 卒業後の進路についてどのような希望をもっています（いました）か。

本項目は、卒業後の進路についての希望を大学入学時点と現時点においてどうであったのか、どうなのかを問うものである。また、進路が決定しているか否かについても質問している。

質問項目は以下の通りである。

- 民間企業に就職する
- 公務員になる
- 教師、税理士、中・上級情報処理技術者などのある程度高度な専門職につく
- 自営など上記以外の形で就職する
- 大学院などに進学する（海外含む）
- その他
- 決めていない

これらの項目に関して以下の選択肢の中で該当するものにマークを付けて回答される。

- 大学入学したとき（いくつでも○）
- 現在の希望（いくつでも○）
- 決定している（一つだけ○）

本項目に対する回答結果を図3-13に示す。

問12 卒業後の進路についてどのような希望をもっています（いました）か。

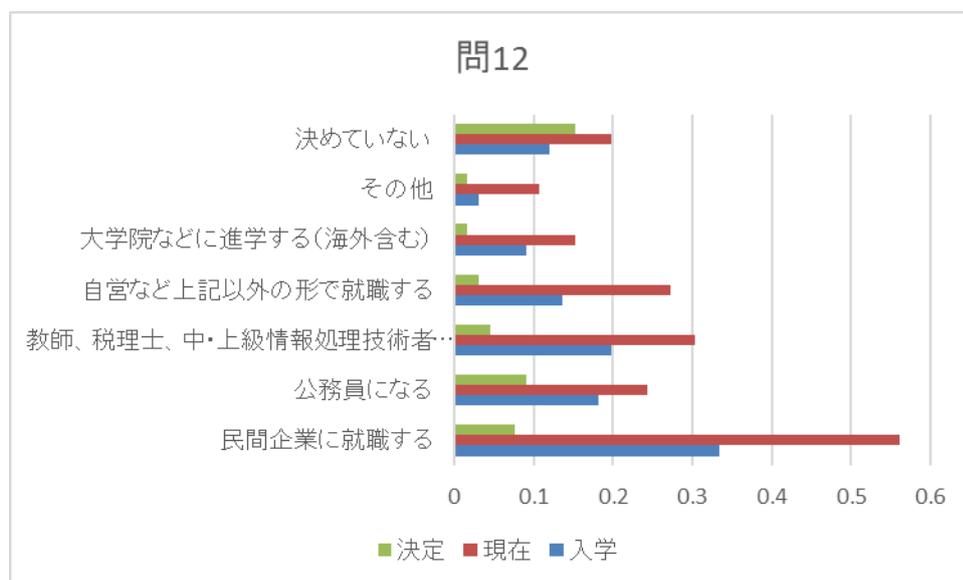


図3-13. 卒業後の進路に関する希望

本結果より、入学時の希望および現在の希望としては、民間企業への就職を希望する学生が最も多い。全体的な希望状況をみると、入学時の希望とおおむね告示した割合となっていることがわかる。自営等、起業を希望する学生も一定の範囲で存在している。

問13 就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。

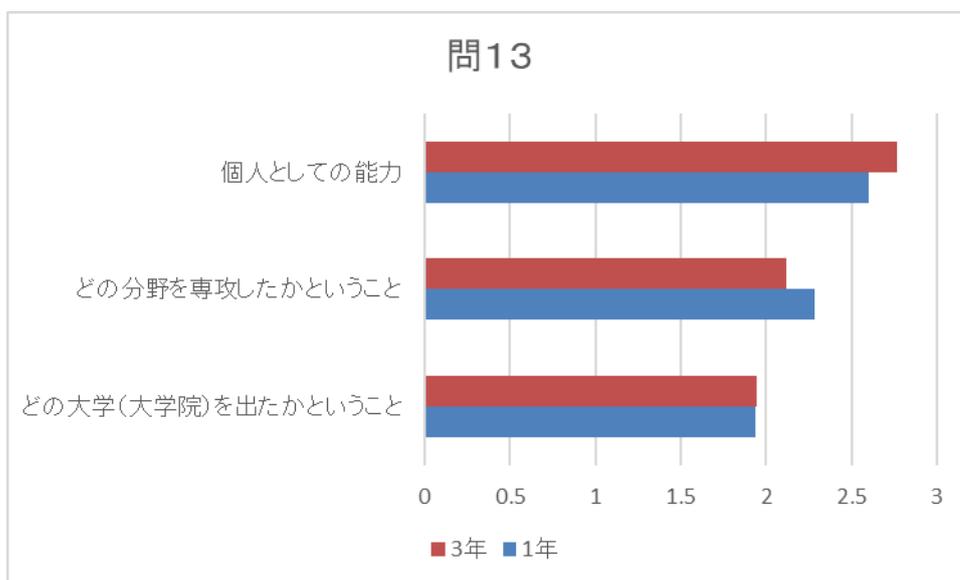
本問は、就職する上でどのようなことが重要であると学生が考えているかを問うものである。項目は次の通りである。

- どの大学（大学院）を出たかということ
- どの分野を専攻したかということ
- 個人としての能力

これらの項目に対して次の項目から選択する。

1. 重要ではない
2. ある程度重要
3. きわめて重要

問13 就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。



3-14. 就職する上で、どの程度重要であるかに関する回答結果

本問への回答結果を図3-14に示す。回答結果を見ると、学生達は、個人能力がもっとも重要であると考えている。評価値は「2. ある程度重要」と「3. きわめて重要」の間にある。それと比較して、どの大学や大学院を出たかは、さほど重要ではないと考えている。この結果は昨年度と同様である。

問14 仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

本問は、学生が仕事に対してどのようなことを望んでいるのかを問う項目であり、問6と同様に、A項目と、それと対照的なB項目のいずれに近いかを答える形式での設問となっている。質問項目は以下の通りである。

- A チームで仕事をして成果を分かち合う
- B 個人の努力が成果に結びつく

- A あらかじめ決められたことを形にする
- B 新しい商品やサービスを生み出す

- A 年齢や経験を重視した給与

B 個人の業績や能力が大きく影響する給与

A 残業が多くてもキャリアアップできる

B 残業が少なく自分の時間が持てる

A 一つの仕事で専門家になること

B いろいろな仕事を幅広く経験できること

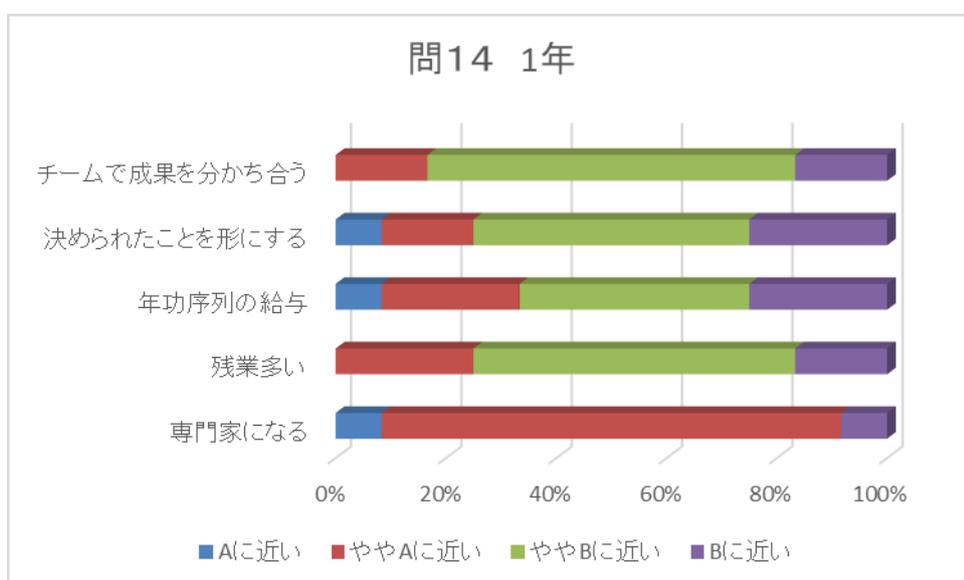
これらの項目に対して次の4項目から選択することを求めている。

1. Aに近い
2. ややAに近い
3. ややBに近い
4. Bに近い

本問に対する回答結果を図3-15に示す。

問14 仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

1年



3年

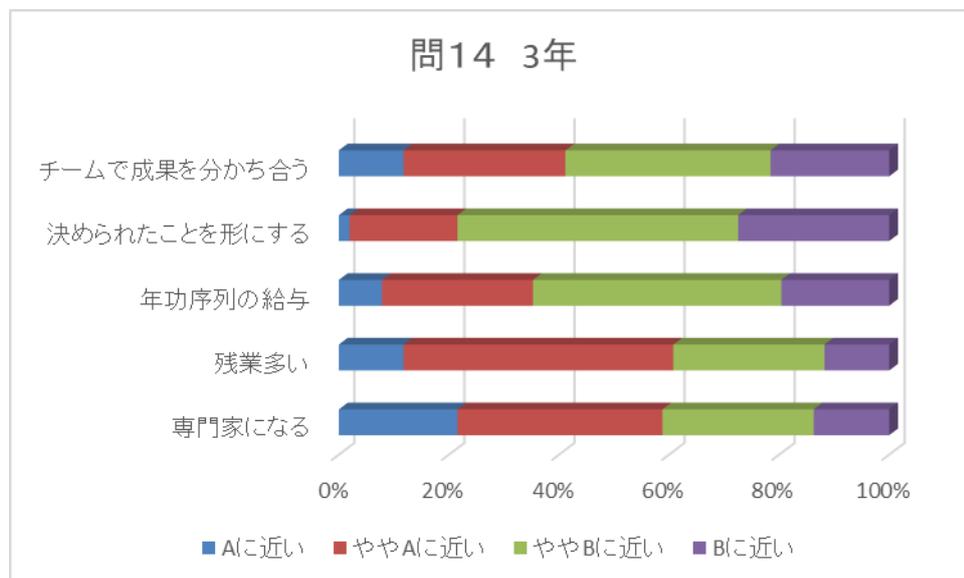


図3-15. 仕事に望むことに関する回答結果

昨年の調査結果によると、1年生は「チームで仕事をして成果を分かち合う」および「あらかじめ決められたことを形にする」についてAよりの回答した学生の割合が多かったのであるが、今年度は大きく異なり、それぞれ圧倒的にBよりの回答をした学生の割合が多い。チームで取り組むより「個人の努力が成果に結びつく」ことを、あらかじめ決められたことを形にするよりも「新しい商品やサービスを生み出す」を希望し、「個人の業績や能力が大きく影響する給与」を望む1年生が多いことがわかる。「一つの仕事で専門家になること」も9割の学生が望んでいる。しかしながら、「残業が少なく自分の時間が持てる」ことを希望する学生の割合は昨年同様に多い。つまり、個人プレーで超人的な力を発揮し、クリエイティブでしかも残業無しでも高給を得ることが出来る専門家、が彼らの理想なのかもしれない。1年生にとっては就職がまだ現実味を帯びていないためか、どうしてもイメージと理想が先行する傾向があるが、今年は昨年度の学生よりもその傾向が加速している感がある。

昨年の3年生は「チームで仕事をして成果を分かち合う」だけがAよりの回答で、6割を超える学生がチームプレーを望んでいたのであるが、今年度は4割弱である。1年生よりはチームを重んじる傾向がみられるものの、あらかじめ決められたことを形にするよりも「新しい商品やサービスを生み出す」を希望し、「個人の業績や能力が大きく影響する給与」を望む傾向は1年生と同様である。例年3年生の方が1年生よりも全体的にAより、言い方を変えれば保守的な傾向が強いのだが、今年度の3年生は残業に対して5割以上が寛容であり、昨年の3割から大幅に増加して

いる。

問15 大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

本問は、卒業後のキャリアについての展望を9項目に関して質問している。その内容は以下の通りである。

- すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる
- すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない
- すぐに大学院などに進学する
- 就職してから大学院への進学を考える
- 資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない
- 卒業後すぐには就職しなくてもよい
- 最初の就職先にできるだけ長く勤める
- 何年かして転職や独立をする
- 結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）

本質問項目に対する回答項目は以下の通りである。

1. そう思わない
2. ある程度思う
3. そう思う

本問への回答結果を図3-16に示す。中間値である「2. ある程度思う」より強く思う項目は、「最初の就職先にできるだけ長く勤める」および「すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる」となっている。両者を合わせると、転職を繰り返すよりも、安定した職場で長く働きたいという考えが表れている。これは昨年度、今回と共通の傾向となっている。

一方、値が低い、すなわち、思わない程度が大きいのは、「すぐに大学院などに進学する」、「就職してから大学院への進学を考える」、「資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない」、「卒業後すぐには就職しなくてもよい」となっており、将来進学することは考えておらず、また卒業後にはいずれかの企業に就職を希望しているという考えが現れている。

問15 大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

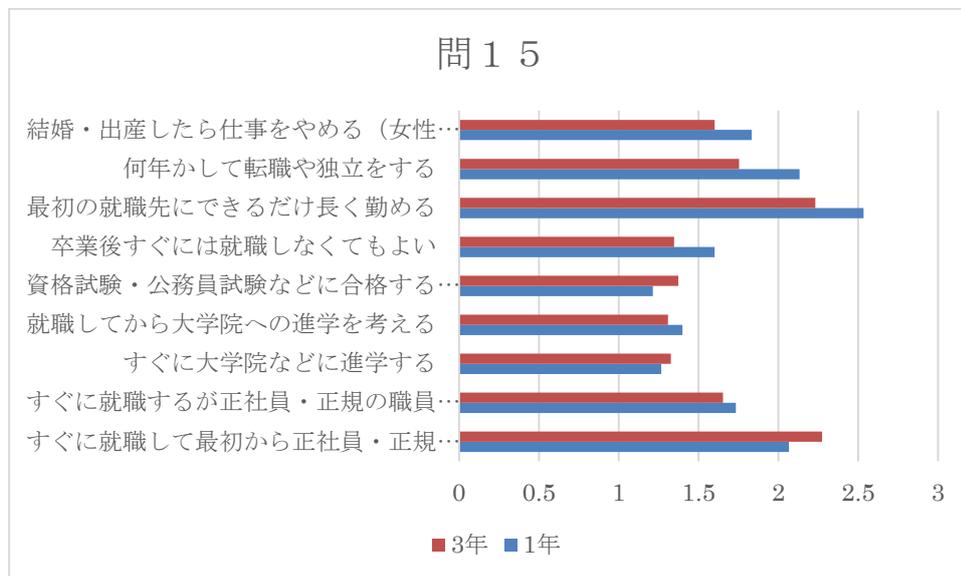


図3-16. 大学卒業後のキャリアに関する回答

3.4. 日常生活に関する質問

問16 今学期は、大学にはどの程度来ていますか。また授業にはどれくらい出席していますか。

図1では1年生と3年生を合わせた1週間の登校日数を示す。講義が行われている日数が5日であるので、6日および7日を回答した学生は土日も登校しているので、講義以外のクラブ活動等と思われる。詳細な値は表1に示されているが、5日が45%、4日が30%である。1年生と3年生の在籍者数は合計で約200名、アンケートの回答者が62名であり、全体の約30%が回答したことになる。

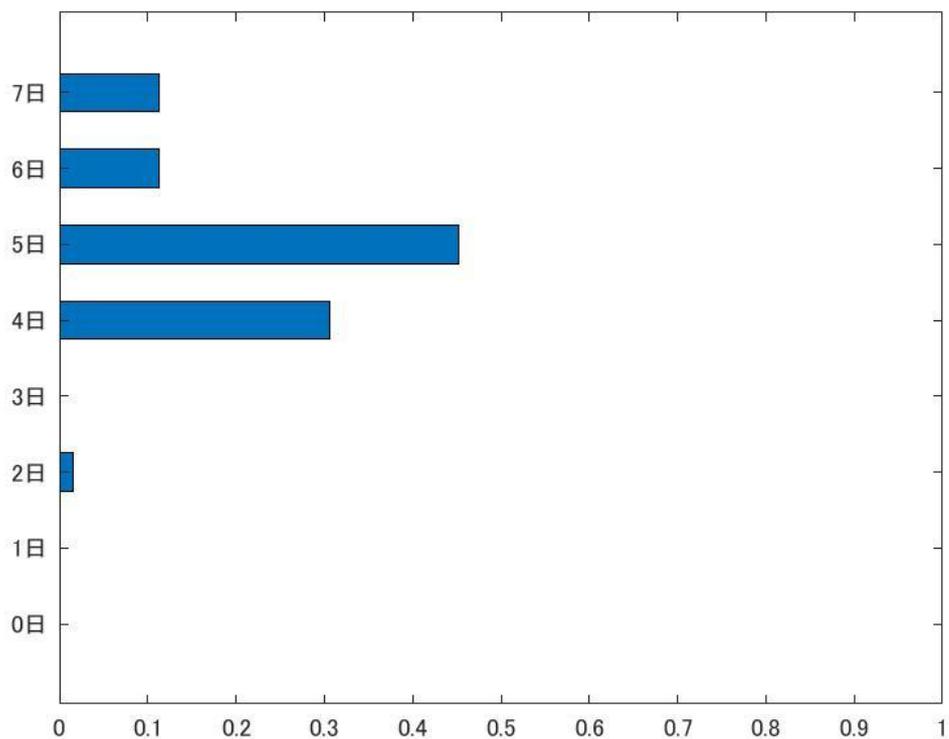


図 1 学期中大学に来ている日数の分布の割合。1年生、3年生合わせた結果

表 1 学期中大学に来ている日数

日数	人数			割合		
	Total	3年生	1年生	Total	3年生	1年生
7	7	3	4	0.1129	0.2143	0.0833
6	7	1	6	0.1129	0.0714	0.1250
5	28	7	21	0.4516	0.5000	0.4375
4	19	3	16	0.3065	0.2143	0.3333
3	0	0	0	0	0	0
2	1	0	1	0.0161	0	0.0208
1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0

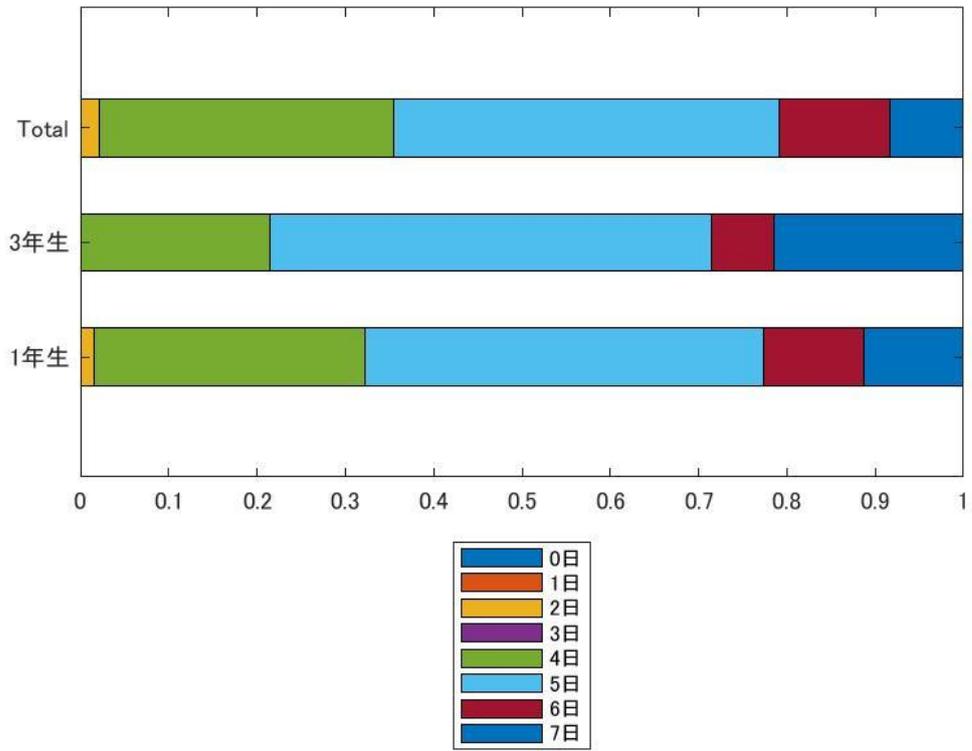


図 2 図 1 と同じ結果の見せ方を変えたグラフ

図3は授業への出席率を表す。殆どの学生が7割以上出席しており，その累積割合は約97%である。講義回数の3分の1以上の出席がないと単位が認定されない規則があるので，比較的真面目な学生はこの値を満たすように行動すると推察できる。詳細な値は表2に示されているが，全問と同様に全体の約30%が回答したことになる。

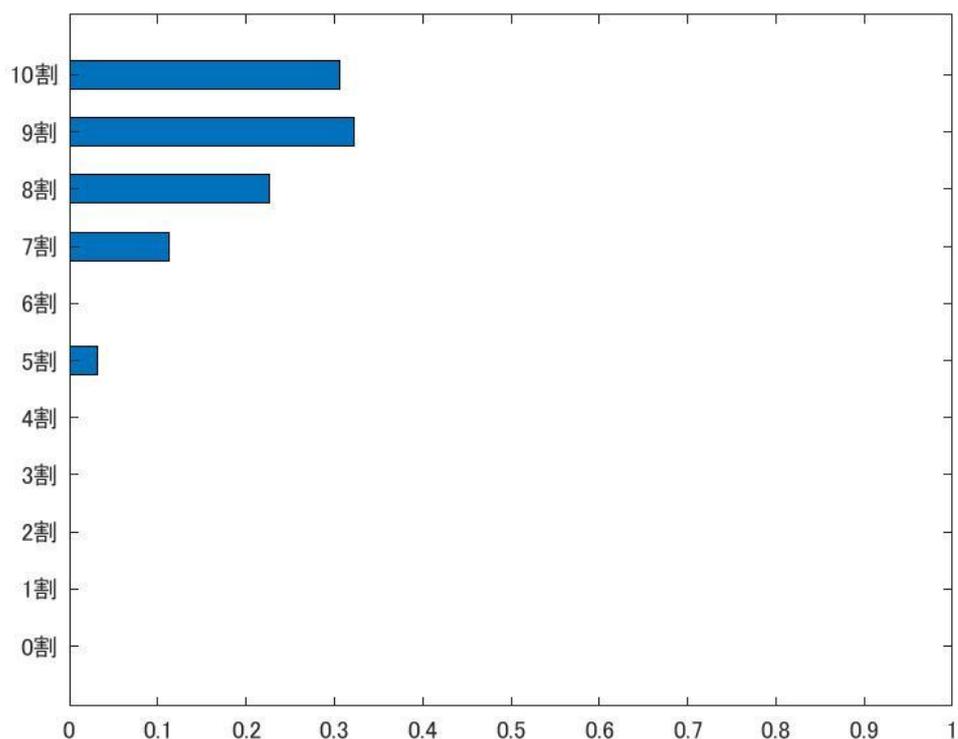


図3 授業への出席率の分布の割合。1年生、3年生合わせた結果

表2 授業への出席率

割合	人数			割合		
	Total	3年生	1年生	Total	3年生	1年生
10	19	6	13	0.3065	0.5000	0.2600
9	20	3	17	0.3226	0.2500	0.3400
8	14	1	13	0.2258	0.0833	0.2600
7	7	2	5	0.1129	0.1667	0.1000
6	0	0	0	0	0	0
5	2	0	2	0.0323	0	0.0400
4	0	0	0	0	0	0

3	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0

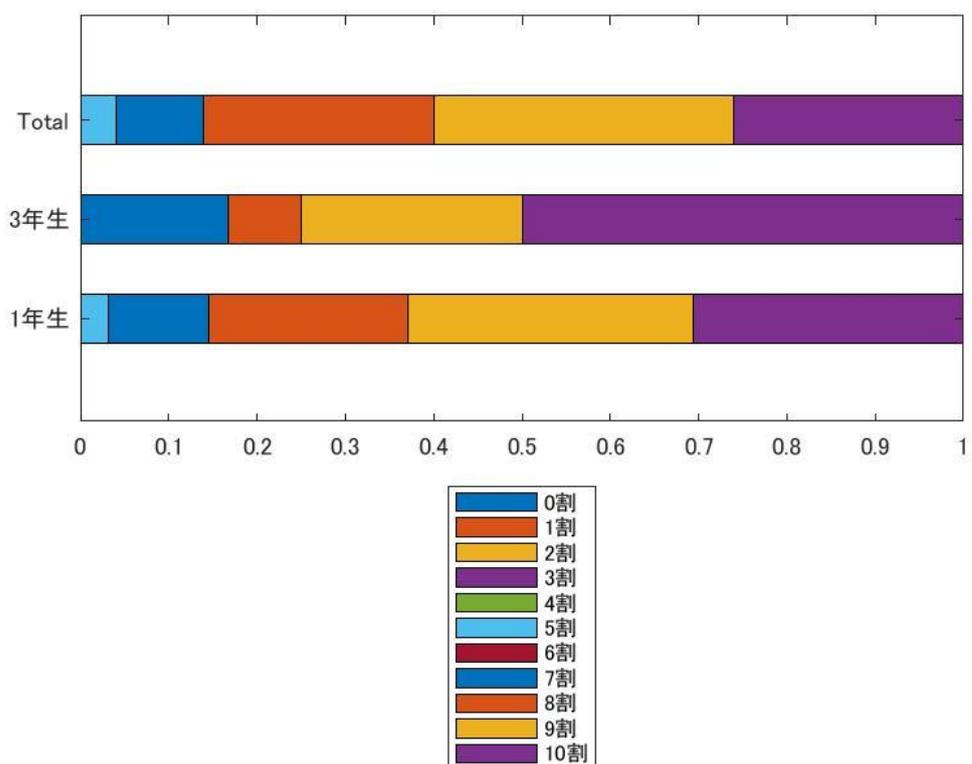


図 4 図 2 と同じ結果の見せ方を変えたグラフ

問 17 典型的な1週間の平均的な生活時間を、学期中と休暇中の別に教えてください。

図 5 は学期中および休暇中の時間の使い方を表したものである。休暇中にアルバイトやサークル、学習を全くしていない(0時間)割合が、それぞれ27%、30%、25%である。また、学期中においては、アルバイトとサークル活動が0時間の割合は休暇中とほぼ変わらず、25%と29%である。さらに、授業内容以外の学習の割合は、0時間が25%、1～5時間が33%となり、1日に換算すると1時間未満の学生が5割以上となる。予習復習時間では、0時間は1%未満、1～5時間は51%と、授業の予習復習でも1日当たり1時間を切る学生が半分以上いる。1年生と3年生を対象としたアンケートにおいて、卒論に費やす時間では3年生でも8割近くが5時間未満/週になっている。

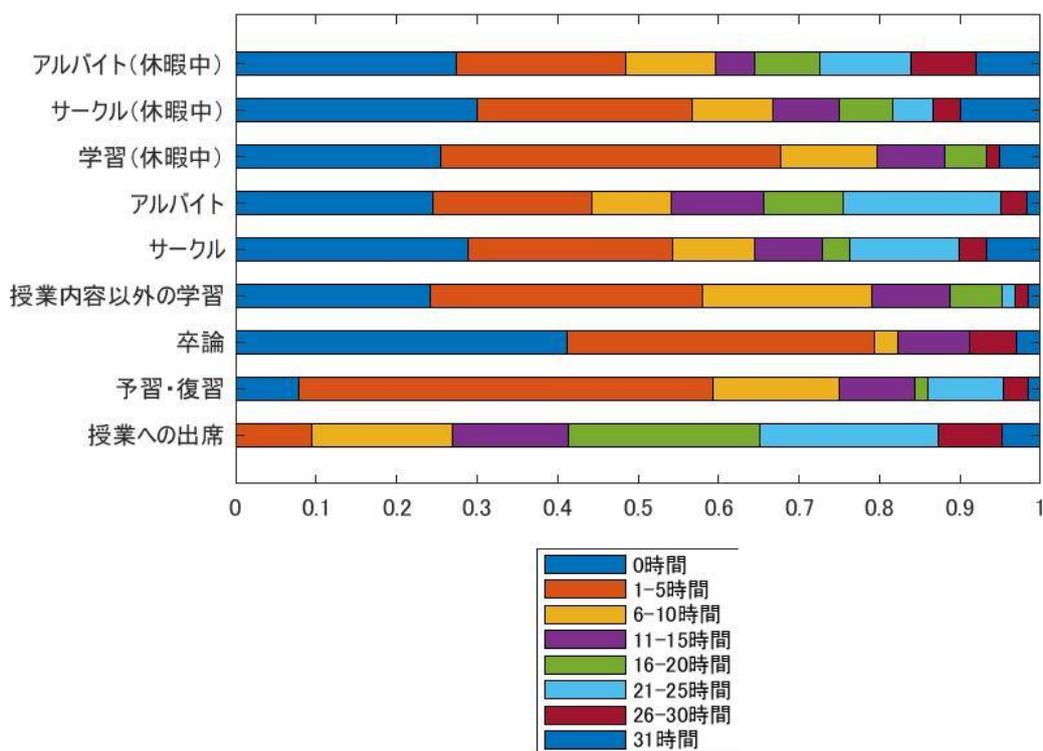


図 5 1週間で各項目に費やす時間の人数分布

表 3 1週間で各項目に費やす時間の人数分布（1から順に「学期中の授業実験への出席」の質問項目に対応する。図5における下から順に対応する。）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	5	14	15	17	15	15	18	17
1-5	6	33	13	21	15	12	25	16	13
6-10	11	10	1	13	6	6	7	6	7
11-15	9	6	3	6	5	7	5	5	3
16-20	15	1	0	4	2	6	3	4	5
21-25	14	6	0	1	8	12	0	3	7
26-30	5	2	2	1	2	2	1	2	5
31-	3	1	1	1	4	1	3	6	5

表 4 1週間で各項目に費やす時間の人数分布の割合（1から順に「学期中の授業実験への出席」の質問項目に対応する。図5における下から順に対応する。）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	0.0781	0.4118	0.2419	0.2881	0.2459	0.2542	0.3000	0.2742
1-5	0.0952	0.5156	0.3824	0.3387	0.2542	0.1967	0.4237	0.2667	0.2097
6-10	0.1746	0.1563	0.0294	0.2097	0.1017	0.0984	0.1186	0.1000	0.1129
11-15	0.1429	0.0938	0.0882	0.0968	0.0847	0.1148	0.0847	0.0833	0.0484
16-20	0.2381	0.0156	0	0.0645	0.0339	0.0984	0.0508	0.0667	0.0806
21-25	0.2222	0.0938	0	0.0161	0.1356	0.1967	0	0.0500	0.1129
26-30	0.0794	0.0313	0.0588	0.0161	0.0339	0.0328	0.0169	0.0333	0.0806
31-	0.0476	0.0156	0.0294	0.0161	0.0678	0.0164	0.0508	0.1000	0.0806

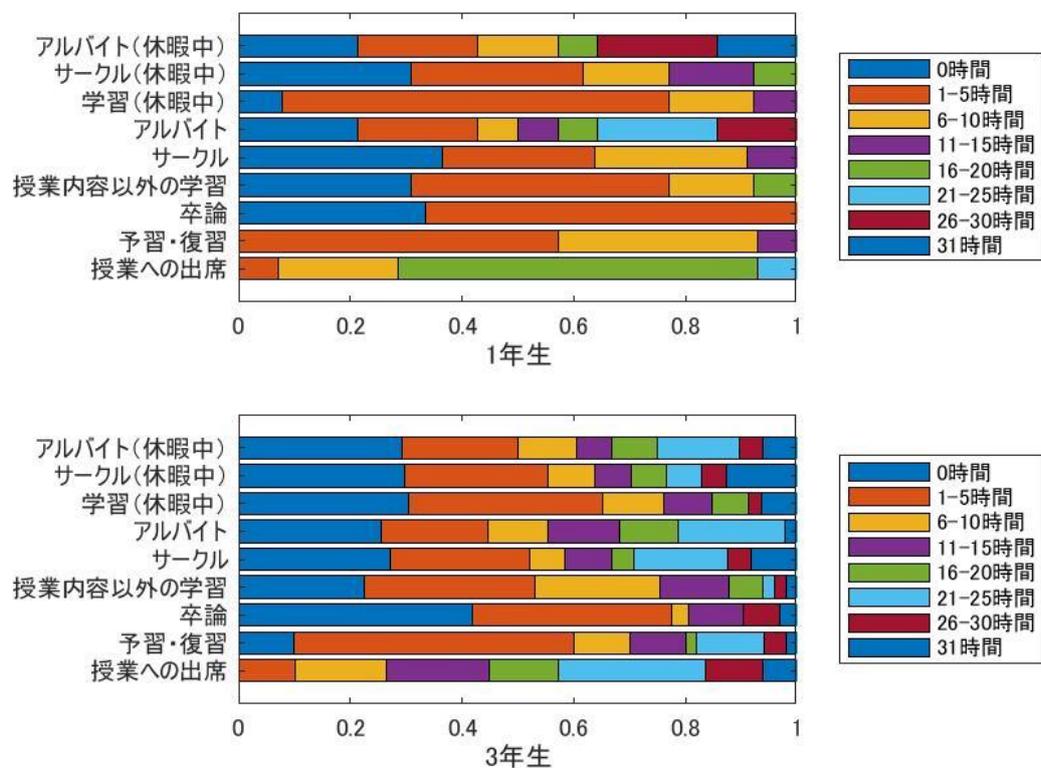


図 6 図 5 の各学年ごとの人数分布

表 5 1 週間で各項目に費やす時間の 3 年生の人数分布 (表 3 の 3 年生だけを抽出)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	5	13	11	13	12	14	14	14
1-5	5	25	11	15	12	9	16	12	10
6-10	8	5	1	11	3	5	5	4	5
11-15	9	5	3	6	4	6	4	3	3
16-20	6	1	0	3	2	5	3	3	4
21-25	13	6	0	1	8	9	0	3	7
26-30	5	2	2	1	2	0	1	2	2
31-	3	1	1	1	4	1	3	6	3

表 6 1週間で各項目に費やす時間の3年生の人数分布の割合（表4の3年生だけを抽出）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	0.1000	0.4194	0.2245	0.2708	0.2553	0.3043	0.2979	0.2917
1-5	0.1020	0.5000	0.3548	0.3061	0.2500	0.1915	0.3478	0.2553	0.2083
6-10	0.1633	0.1000	0.0323	0.2245	0.0625	0.1064	0.1087	0.0851	0.1042
11-15	0.1837	0.1000	0.0968	0.1224	0.0833	0.1277	0.0870	0.0638	0.0625
16-20	0.1224	0.0200	0	0.0612	0.0417	0.1064	0.0652	0.0638	0.0833
21-25	0.2653	0.1200	0	0.0204	0.1667	0.1915	0	0.0638	0.1458
26-30	0.1020	0.0400	0.0645	0.0204	0.0417	0	0.0217	0.0426	0.0417
31-	0.0612	0.0200	0.0323	0.0204	0.0833	0.0213	0.0652	0.1277	0.0625

表 7 1週間で各項目に費やす時間の1年生の人数分布（表3の1年生だけを抽出）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	0	1	4	4	3	1	4	3
1-5	1	8	2	6	3	3	9	4	3
6-10	3	5	0	2	3	1	2	2	2
11-15	0	1	0	0	1	1	1	2	0
16-20	9	0	0	1	0	1	0	1	1
21-25	1	0	0	0	0	3	0	0	0
26-30	0	0	0	0	0	2	0	0	3
31-	0	0	0	0	0	0	0	0	2

表 8 1週間で各項目に費やす時間の1年生の人数分布の割合（表4の1年生だけを抽出）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	0	0	0.3333	0.3077	0.3636	0.2143	0.0769	0.3077	0.2143
1-5	0.0714	0.5714	0.6667	0.4615	0.2727	0.2143	0.6923	0.3077	0.2143
6-10	0.2143	0.3571	0	0.1538	0.2727	0.0714	0.1538	0.1538	0.1429
11-15	0	0.0714	0	0	0.0909	0.0714	0.0769	0.1538	0
16-20	0.6429	0	0	0.0769	0	0.0714	0	0.0769	0.0714
21-25	0.0714	0	0	0	0	0.2143	0	0	0
26-30	0	0	0	0	0	0.1429	0	0	0.2143
31-	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1429

問 18 あなたは本（マンガを除く）を1か月に何冊くらい読みますか。

図7は一ヶ月に読む書籍の冊数を表したものである。全体の65人中、1冊も読まなかった学生は30人に達している。また、それぞれの割合は、表9より0冊が全体で46%、3年生で52%、1年生は23%であった。累計でも2冊以下が全体で89%、3年生で92%、1年生は77%であった。

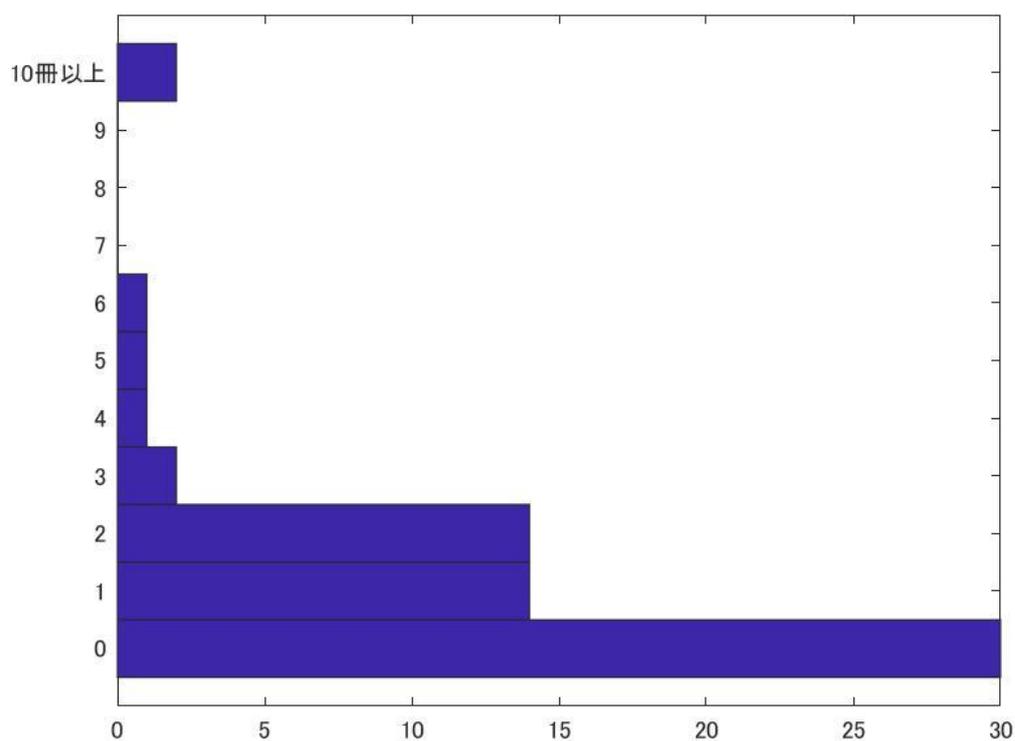


図 7 1か月に読む本の冊数の人数分布

表 9 1 か月に読む本の冊数の人数分布

冊数	全体	3 年生	1 年生
10 冊以上	2	0	2
9	0	0	0
8	0	0	0
7	0	0	0
6	1	1	0
5	1	1	0
4	1	1	0
3	2	1	1
2	14	9	5
1	14	12	2
0	30	27	3

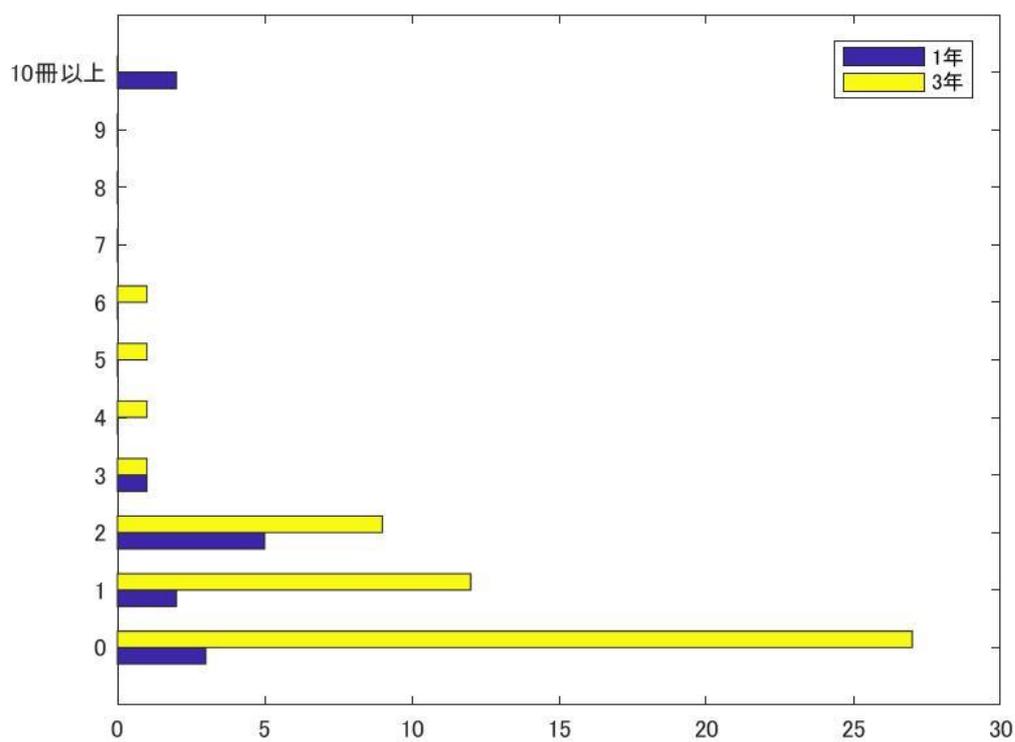


図 8 1 か月に読む本の冊数の学年別人数分布 (紫は 1 年生、黄色は 3 年生の人数を示す)

問 19 あなたは、どのような友達とよく話をしますか。

図 9 は友達と話す機会についてまとめたもので、自己発見、ゼミ演習、その他についてはそれぞれの回答項目の割合はさほど開きはないが、サークルに関しては「よくある」が一番多く、次に多い「ほとんどない」と回答を 2 分していることが特徴的である。図 10 は 1 年生と 3 年生を分離した図であるが、1 年生ではゼミ演習が必修科目でないため、回答者が全員受講しているかは不明である。回答の割合事態に疑問が残る。また、3 年生はサークルの「よくある」が 60%、ゼミ・演習が必修科目であるため、同じく「よくある」が 40%である。

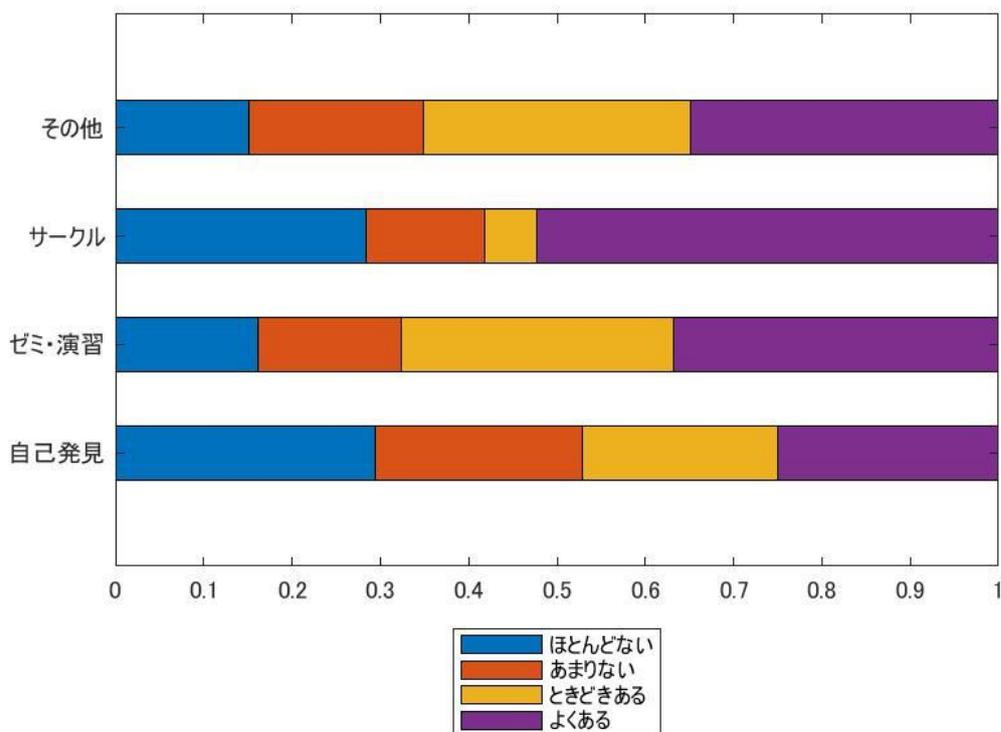


図 9 どのような友達と話すかの人数分布

表 10 どのような友達と話すかの人数分布

	自己発見		ゼミ・演習		サークル		その他	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんどない	20	0.2941	11	0.1618	19	0.2836	10	0.1515
あまりない	16	0.2353	11	0.1618	9	0.1343	13	0.1970

ときどきある	15	0.2206	21	0.3088	4	0.0597	20	0.3030
よくある	17	0.2500	25	0.3676	35	0.5224	23	0.3485

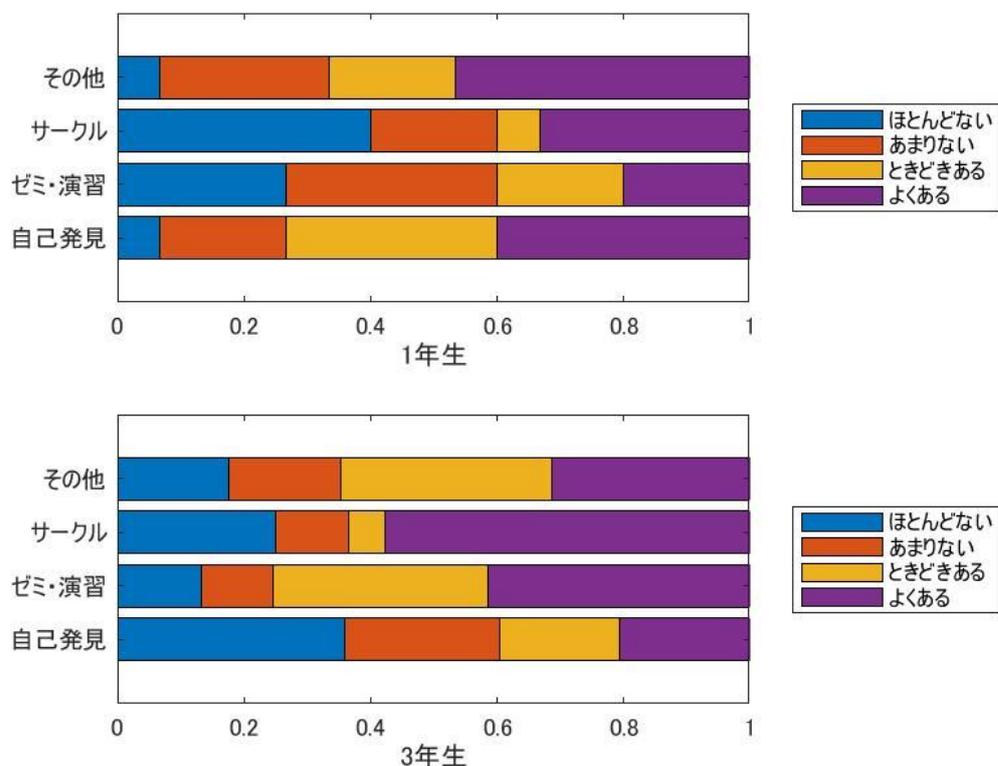


図 10 どのような友達と話すかの学年別人数分布

表 11 どのような友達と話すかの 1 年生の人数分布

	自己発見		ゼミ・演習		サークル		その他	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
ほとんどない	1	0.0667	4	0.2667	6	0.4000	1	0.0667
あまりない	3	0.2000	5	0.3333	3	0.2000	4	0.2667
ときどきある	5	0.3333	3	0.2000	1	0.0667	3	0.2000
よくある	6	0.4000	3	0.2000	5	0.3333	7	0.4667

表 12 どのような友達と話すかの 3 年生の人数分布

	自己発見		ゼミ・演習		サークル		その他	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合

ほとんどない	19	0.3585	7	0.1321	13	0.2500	9	0.1765
あまりない	13	0.2453	6	0.1132	6	0.1154	9	0.1765
ときどきある	10	0.1887	18	0.3396	3	0.0577	17	0.3333
よくある	11	0.2075	22	0.4151	30	0.5769	16	0.3137

3.5. その他の質問

問 20 あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらいありますか。

図 11 は 20 の設問項目に対する回答であるが、「ほとんどない」と「あまりない」を加えると、1, 4, 5, 6, 10, 11 の 6 項目★（12 項目中半分）が 50%前後であるが、それ以外の項目では 70%以上となっている。逆に言えば、この 6 項目については、半分の学生が悩んでいることになる。また、経済的理由も含めて進路変更（7、8、9）を考えている学生（ときどきある+よくある）が 20%程度存在し、退学予備軍と考えられる。

図 12 は学年ごとの割合であるが、1 年生でも退学は考えていないが経済的に困窮したり、進路変更を希望したりしている学生が若干名存在する。

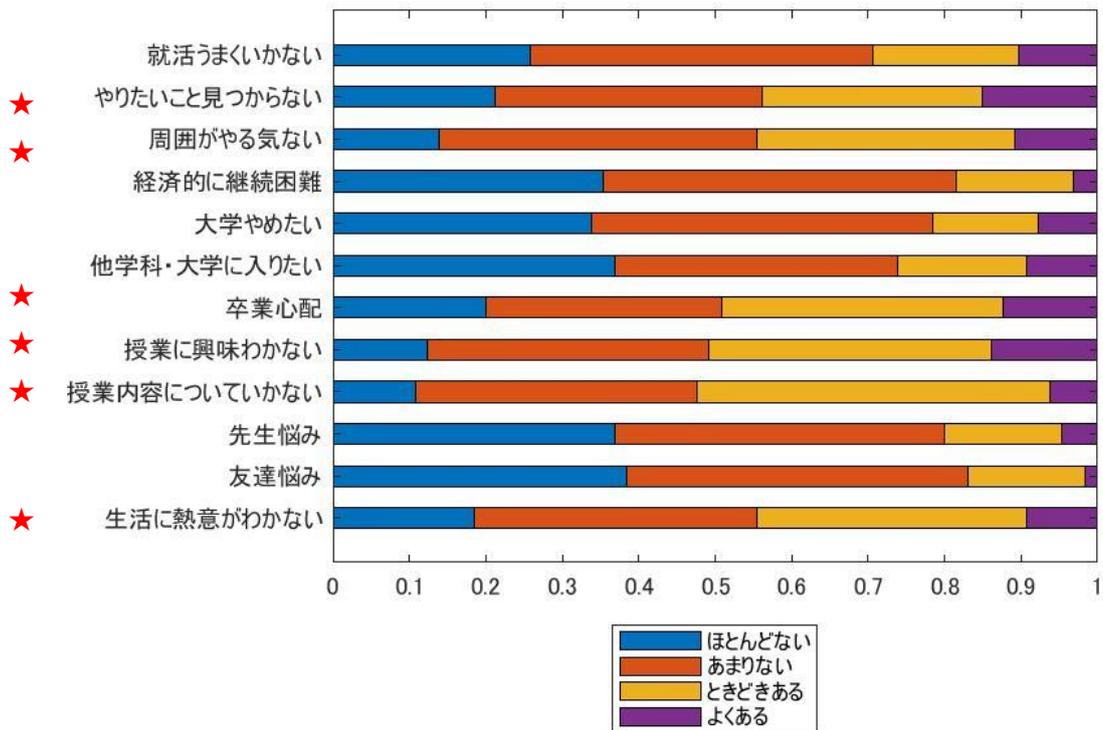


図 11 感じたり思ったりした割合

表 13 感じたり思ったりした人数

1 から順に「生活に熱意がわかない」の質問項目に対応する。図 11 における下から順に対応する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほとんどない	12	25	24	7	8	13	24	22	23	9	14	15
あまりない	24	29	28	24	24	20	24	29	30	27	23	26
ときどきある	23	10	10	30	24	24	11	9	10	22	19	11
よくある	6	1	3	4	9	8	6	5	2	7	10	6

表 14 感じたり思ったりしたと回答した割合

1 から順に「生活に熱意がわかない」の質問項目に対応する。図 11 における下から順に対応

する。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほとんどない	0.1846	0.3846	0.3692	0.1077	0.1231	0.2000	0.3692	0.3385	0.3538	0.1385	0.2121	0.2586
あまりない	0.3692	0.4462	0.4308	0.3692	0.3692	0.3077	0.3692	0.4462	0.4615	0.4154	0.3485	0.4483
ときどきある	0.3538	0.1538	0.1538	0.4615	0.3692	0.3692	0.1692	0.1385	0.1538	0.3385	0.2879	0.1897
よくある	0.0923	0.0154	0.0462	0.0615	0.1385	0.1231	0.0923	0.0769	0.0308	0.1077	0.1515	0.1034

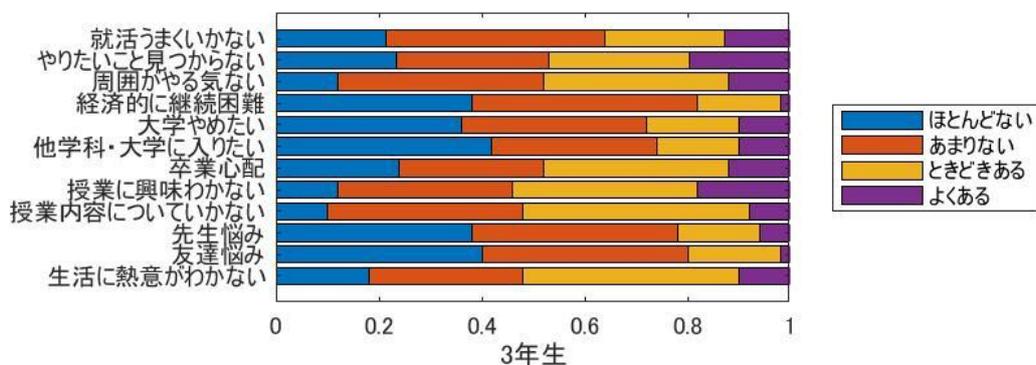
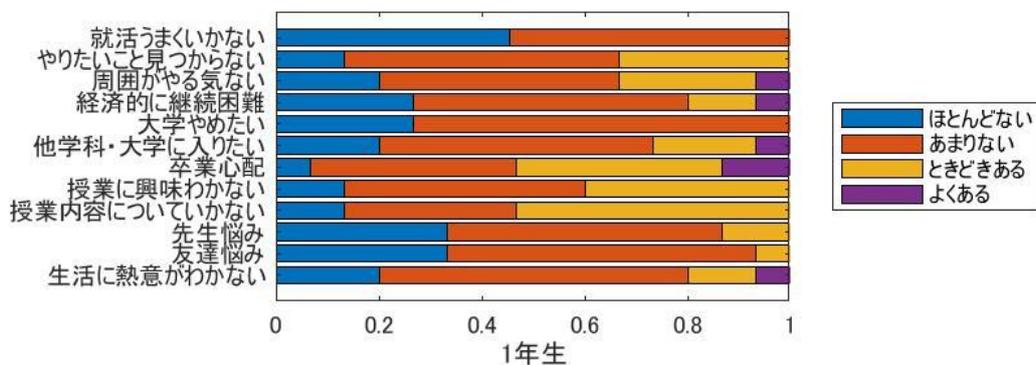


図 12 感じたり思ったりした各学年ごとの割合

表 15 感じたり思ったりした1年生の人数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほとんどない	3	5	5	2	2	1	3	4	4	3	2	5
あまりない	9	9	8	5	7	6	8	11	8	7	8	6
ときどきある	2	1	2	8	6	6	3	0	2	4	5	0
よくある	1	0	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0

表 16 感じたり思ったりしたと回答した 1 年生における割合

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほとんどない	0.2000	0.3333	0.3333	0.1333	0.1333	0.0667	0.2000	0.2667	0.2667	0.2000	0.1333	0.4545
あまりない	0.6000	0.6000	0.5333	0.3333	0.4667	0.4000	0.5333	0.7333	0.5333	0.4667	0.5333	0.5455
ときどきある	0.1333	0.0667	0.1333	0.5333	0.4000	0.4000	0.2000	0.0000	0.1333	0.2667	0.3333	0.0000
よくある	0.0667	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.1333	0.0667	0.0000	0.0667	0.0667	0.0000	0.0000

表 17 感じたり思ったりした 3 年生の人数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほとんどない	9	20	19	5	6	12	21	18	19	6	12	10
あまりない	15	20	20	19	17	14	16	18	22	20	15	20
ときどきある	21	9	8	22	18	18	8	9	8	18	14	11
よくある	5	1	3	4	9	6	5	5	1	6	10	6

表 18 感じたり思ったりしたと回答した 3 年生における割合

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ほとんどない	0.1800	0.4000	0.3800	0.1000	0.1200	0.2400	0.4200	0.3600	0.3800	0.1200	0.2353	0.2128
あまりない	0.3000	0.4000	0.4000	0.3800	0.3400	0.2800	0.3200	0.3600	0.4400	0.4000	0.2941	0.4255
ときどきある	0.4200	0.1800	0.1600	0.4400	0.3600	0.3600	0.1600	0.1800	0.1600	0.3600	0.2745	0.2340
よくある	0.1000	0.0200	0.0600	0.0800	0.1800	0.1200	0.1000	0.1000	0.0200	0.1200	0.1961	0.1277

問 21 次のような点で本学は成功していると思いますか。また将来の本学にとって重要だと思いますか。

各観点の重要度と成功度はそれぞれ別の概念であり，別の設問で別々に問われるべきであるので，有意義な分析は不可能である．そのため，この設問項目は以下にデータの集計結果のみを記すものとする．

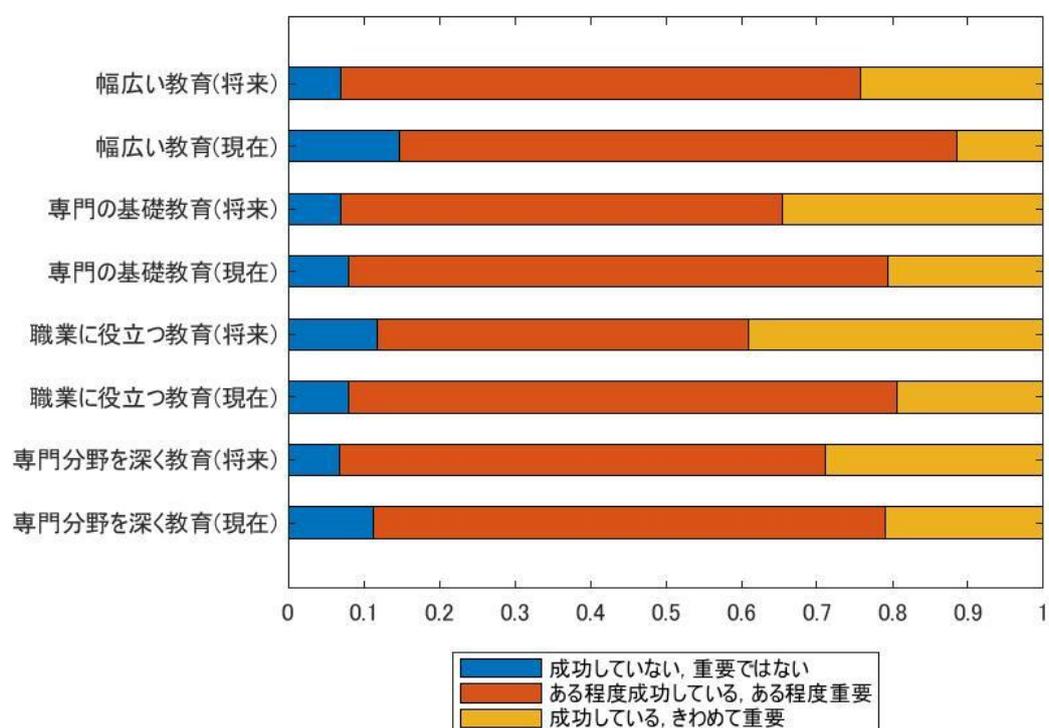


図 13 各質問項目における全学生の選択した割合

表 19 各質問項目における全学生の選択した人数とその割合

	重要ではない 成功していない		ある程度重要 ある程度成功		極めて重要 成功している	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
	幅広い教育(将来)	4	0.0690	40	0.6897	14
幅広い教育(現在)	9	0.1475	45	0.7377	7	0.1148
専門の基礎教育(将来)	4	0.0690	34	0.5862	20	0.3448
専門の基礎教育(現在)	5	0.0794	45	0.7143	13	0.2063

職業に役立つ教育（将来）	7	0.1186	29	0.4915	23	0.3898
職業に役立つ教育（現在）	5	0.0806	45	0.7258	12	0.1935
専門分野を深く教育（将来）	4	0.0678	38	0.6441	17	0.2881
専門分野を深く教育（現在）	7	0.1129	42	0.6774	13	0.2097

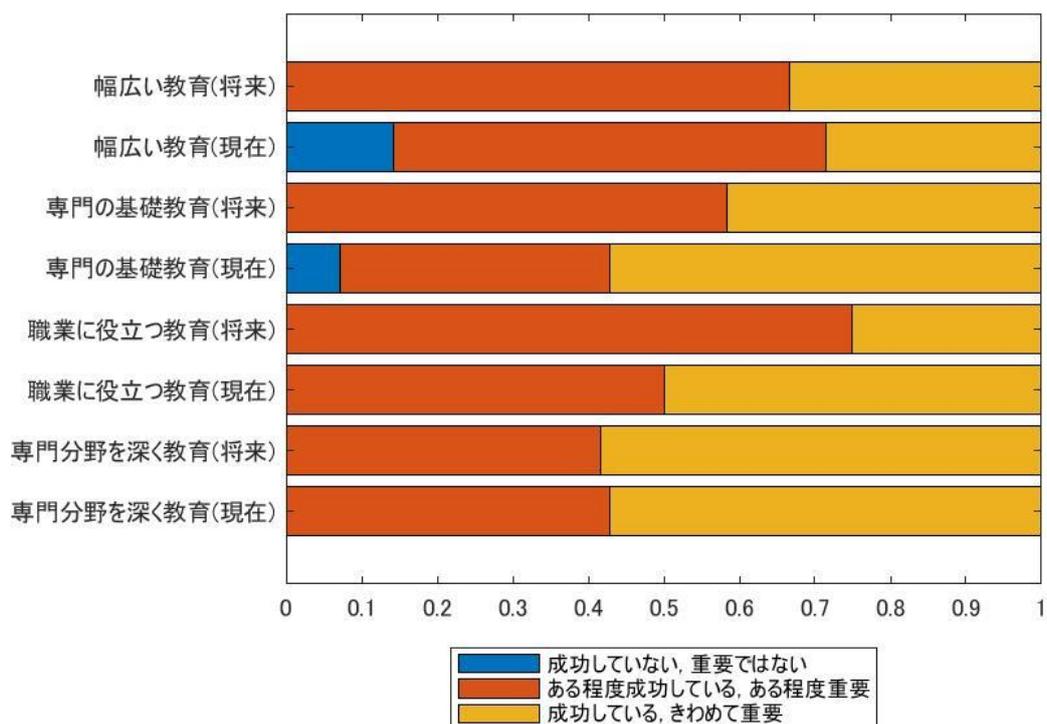


図 14 各質問項目における 1 年生の選択した割合

表 20 各質問項目における 1 年生の選択した人数とその割合

	重要ではない 成功していない		ある程度重要 ある程度成功		極めて重要 成功している	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
	幅広い教育（将来）	0	0.0000	8	0.6667	4
幅広い教育（現在）	2	0.1429	8	0.5714	4	0.2857
専門の基礎教育（将来）	0	0.0000	7	0.5833	5	0.4167
専門の基礎教育（現在）	1	0.0714	5	0.3571	8	0.5714
職業に役立つ教育（将来）	0	0.0000	9	0.7500	3	0.2500
職業に役立つ教育（現在）	0	0.0000	7	0.5000	7	0.5000

専門分野を深く教育（将来）	0	0.0000	5	0.4167	7	0.5833
専門分野を深く教育（現在）	0	0.0000	6	0.4286	8	0.5714

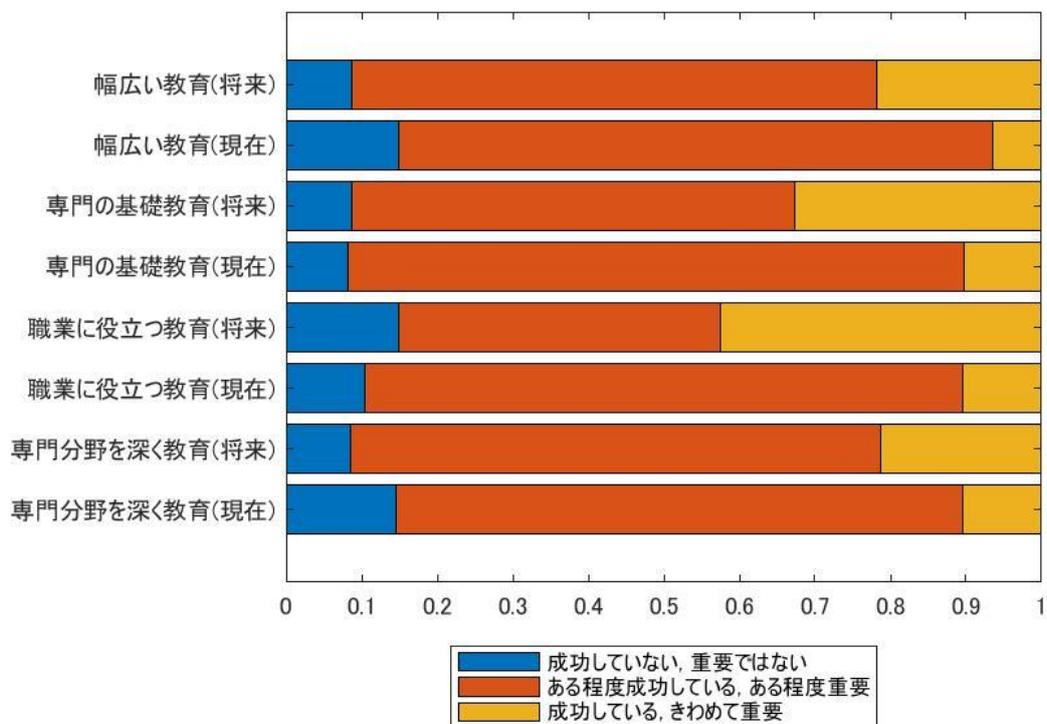


図 15 各質問項目における 3 年生の選択した割合

表 21 各質問項目における 3 年生の選択した人数とその割合

	重要ではない 成功していない		ある程度重要 ある程度成功		極めて重要 成功している	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
幅広い教育（将来）	4	0.0870	32	0.6957	10	0.2174
幅広い教育（現在）	7	0.1489	37	0.7872	3	0.0638
専門の基礎教育（将来）	4	0.0870	27	0.5870	15	0.3261
専門の基礎教育（現在）	4	0.0816	40	0.8163	5	0.1020
職業に役立つ教育（将来）	7	0.1489	20	0.4255	20	0.4255
職業に役立つ教育（現在）	5	0.1042	38	0.7917	5	0.1042
専門分野を深く教育（将来）	4	0.0851	33	0.7021	10	0.2128
専門分野を深く教育（現在）	7	0.1458	36	0.7500	5	0.1042

問 22 本学の教育について、あなたのご意見をご自由に記入してください。

- 先生方の授業中の授業のしかたとか教わったことを覚えながらがんばりたいです。
- 出席率をもう少し全体的に上げてほしい。日本人と留学生と授業を分けてほしい。勉強できる個室があると助かる。何年生までに何単位とらないと進級できないというようにしてほしい。
- 情報系の科目をもっと分かりやすい授業にしてほしい。成績管理をしっかりできていない（出席してるのにしてないことになっているなど）
- 教育外の意見ですが、オリエンテーション中に書くべきアンケートの量が多すぎて集中しきれないので、書く時間をつくるかアンケート内容をもう少し簡易にしてほしい。
- 授業中におもしろい話をしてほしいと思います。
- 図書館の本が古いので最新版などに変えてほしい。
- もっと専門的な授業をふやしてほしい。
- 単位を自由に取れない事が残念です。
- サークル以外の学生には関心がないように感じます。一部ですけど...
- わたしにとってこの大学は非常にいいと思っています。入ったばかりのときはどのように大学での勉強を進んでいったらいいのか分からなくて困っていたが、これからは一生懸命がんばっていきたいと思います。

4. まとめ

本稿では、2017年度に実施された本学（九州情報大学）の学生実態調査アンケートへの回答の概要を報告した。本アンケートは全22問からなる。これらの設問は、[1]授業（7問）、[2]大学教育（4問）、[3]進路（4問）、[4]生活（4問）、[5]その他（3問）に分かれている。未回答の項目もいたるところにあり、また、異常値の記入があるなど、データの正確性には疑問は残るものの、回答全体の傾向を見ることにより、学生の実態の把握や、希望、教育を中心とした本学の課題等をみつけることができる。本報告書では今年度の回答結果を示すとともに、昨年度（2016年度）、一昨年度（2015年度）および現4年生が1年生であった2014年度の結果と比較しつつ、データから様々な示唆を読み取ることを目指した。

今回の調査においては、全体として前回までの傾向と大きな差はみられなかった。たとえば、昨年同様、1年次には自分のレベルにあった授業を望む傾向にあるが、3年次になると授業は難しくてもチャレンジングな方がいいと感じる傾向にある。将来のことがまだ具体的にはイメージしにくい低年次においては幅広い裾野を広げる教育を望み、就職を具体的に意識し始める高年次においては、専門分野を掘り下

げる、より高度な教育を学生は望んでいるものと考えられる。

また、将来の方向性を見つけることや将来活かせる能力を身につけることを、在学中の目標として重視している学生が多く、出来れば授業を通してそのような能力を獲得したいと考えている。

学校に対する満足度についても例年通りの傾向が見て取れ、1年生はいずれの項目に関しても3年生よりも満足度が高くなっている。学生の満足度が最も高いのは、1年生、3年生ともゼミ教員やCDCによる就職指導やカウンセリングである。3年生は授業外の教員との接触においても満足度が高い。逆に評価値の低い項目としては、1年生は「学修以外の大学での経験」「実験・実習などのための施設」、3年生は「大学生活全般」、「実験・実習などのための施設」である。3年前から比較しても、1年生の実験・実習施設においては低い評価値となっている。3年生においても、図書館などの学習施設、実験実習施設において低い評価値が続いており、本学の施設および心のケアに関する不満が継続的に増加していると考えられる。

卒業後の進路に関しては、多くの学生が進学や資格取得に時間を費やすよりも、卒業後すぐに安定した職場で長く働きたいと考えていることがわかる。これも昨年度、今回と共通の傾向となっている。

本学としては、このような調査を通じて示唆された学生の期待に応えるべく、今後も努力や工夫を継続していく必要がある。

付録

次ページ以降に本アンケート調査「2016 本学学生実態調査」の内容を示す。

2017. 本学学生実態調査

九州情報大学

以下のアンケートにお答えください。

アンケートは、今後本学の教育システムを、よりよく改善するためのものです。したがって出来る限り、ありのままの事実・感じ方に基づいて各項目の記載・選択することをお願いします。

回答は、あてはまる項目に○または数字を記入してください。

あなたについて

学 科	経営情報学科	情報ネットワーク学科
コース名	コース ※3年生のみ記入	
現在の学年	1年生	3年生
性別・年齢	男	女 () 才
出身地	日本	日本以外()

[1]授業についてお聞きします

問1 大学に入ってから次のような経験はありますか、またそれは有用でしたか。

	経験した				経験して いない
	有用で はない	どちらと も いえ ない	有用	非常に 有用	
入学時、各学年初め、学期初めの オリエンテーション					
高校での未習科目を学ぶための補修的な科目 や 大学での勉強の方法（スタディ・スキル）を学 ぶ科目 （大学基礎総合、コミュニケーションと自己発 見など）					
就職や将来のキャリアをテーマとした科目 （キャリアデザイン入門、キャリアデザインな ど）					
インターンシップ（教育実習や工場実習を含 む）					

問2 あなたにとって**意味があった**と思う授業を思い出してください。

- A. それはこれまで受けた授業の何割くらいですか。基礎総合科目、専門教育科目の別にお答えください。

基礎総合科目	専門教育科目
割	割

- B. それらの授業にあてはまる特徴はどんなことですか（〇はいくつでも）。

基礎総合科目	専門教育科目	
		最先端の研究成果を披露してくれた
		確実に学問の基礎を教えてくれた
		社会や現実との関わりから学問の意義を教えてくれた
		将来に役立つ実践的な知識や技能を教えてくれた
		資格の取得に役立つ情報やテクニックを教えてくれた
		教え方がうまかった

		自分自身や将来やりたいことを考えるきっかけになった
--	--	---------------------------

問3 これまで受けた授業の形態について、全体が10割になるようお答えください。

講義 (100人以上)	講義 (50人以上100人未満)	講義 (20人以上50人未満)	講義 (20人未満)	演習・ゼミ	実験・実習
割	割	割	割	割	割

問4 これまで受けた授業では、下のようなことがどれくらいありますか。またそれは、必要ですか。

	経験したか				必要か		
	ほとんど なかった	あまり なかった	ある程度 あった	よく あった	必要では ない	ある程度 必要	非常に 必要
授業内容に興味をわくよう工夫されている							
理解がしやすいよう工夫されている							
出席が重視される							
最終試験の他に小テストやレポートなどの課題が出される							
授業中に自分の意見や考えを述べる							
グループワークなど、学生が参加する機会がある							

問5 あなた自身は、授業に対してどのように取り組んでいますか。

	あてはま らない	あまりあて はまらない	ある程度 あてはま る	あて はまる
興味のわかない授業でもきちんと出席する				
なるべく良い成績をとるようにしている				
グループワークやディスカッションに積極的に参加している				
先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている				
必要な予習や復習はした上で授業にのぞんでいる				

問6 大学での学び方について、あなたの考えに近いものを選んでください。

A	Aに 近い	やや Aに	やや Bに	Bに 近い	B
---	----------	----------	----------	----------	---

		近い	近い	
授業はとり方があらかじめ決まっている方がよい				授業は自分で好きなようにとりたい
授業の意義や必要性を教えて欲しい				授業の意義や必要性は自分で見出したい
授業の中で必要なことは全て扱って欲しい				授業はきっかけで、後は自分で学びたい
自分のレベルにあった授業をして欲しい				授業は難しくてもチャレンジングな方がいい
専門以外のことも広く学びたい				専門分野を深く学びたい

問7 あなたの成績について教えてください。

優	良	可
割	割	割

[2]大学教育への評価をうかがいます

問8 次の点で大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

	これまでの授業経験は				自分の実力は			
	全く役立ってない	少しは役立ってる	役立っている	多めに役立っている	不十分	やや不十分	やや十分	多に十分
将来の職業に関連する知識や技能								
専門分野での知識・理解								
専門分野の基礎となるような理論的理解・知識								
論理的に文章を書く力								
人にわかりやすく話す力								
外国語の力								
ものごとを分析的・批判的に考える力								
問題をみつけ、解決方法を考える力								
幅広い知識、ものの見方								

問9 あなたの大学について次の点でどのくらい満足していますか。

	不満	ある程度不満	ある程度満足	満足
授業外での教員との接触 (オフィスワ、ゼミを含む)				
図書館などの学習施設				
実験・実習などのための施設				
就職指導 (CDC)				

就職指導（ゼミ教員）				
学習・生活面でのカウンセリング				
学習以外の大学での経験				
大学生生活全般				

問10 大学在学中の目標として、どのようなことが重要ですか。

	重要でない	少し重要	ある程度重要	重要	最も重要
将来の仕事に活かせる能力を身につける					
資格試験・公務員試験などに合格する					
専門分野の知識・理解を深める					
広い教養、ものの見方を身につける					
自分の将来の方向を見つける					
社会人になるまでの時間をエンジョイする					
有意義な人間関係を築く					

問11 大学の授業とあなたとの関係についてどう思いますか。

	全くあてはまらない	あまりあてはまらない	ある程度あてはまる	よくあてはまる
卒業後にやりたいことは決まっている				
大学での授業はやりたいことに密接に関わっている				
授業を通じてやりたいことを見つけたい				

[3]卒業後の進路

問12 卒業後の進路についてどのような希望をもっています（いました）か。

	大学入学したとき (いくつでも○)	現在の希望 (いくつでも○)	決定している (一つだけ○)
民間企業に就職する			
公務員になる			
教師、税理士、中・上級情報処理技術者などの ある程度高度な専門職につく			
自営など上記以外の形で就職する			
大学院などに進学する（海外含む）			
その他			
決めていない			

問13 就職する上で、次の点はどの程度重要と思いますか。

	重要ではない	ある程度重要	きわめて重要
どの大学（大学院）を出たかということ			

どの分野を専攻したかということ			
個人としての能力			

問14 仕事にどのようなことを望みますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

A	Aに近い	ややAに近い	ややBに近い	Bに近い	B
チームで仕事をして成果を分かち合う					個人の努力が成果に結びつく
あらかじめ決められたことを形にする					新しい商品やサービスを生み出す
年齢や経験を重視した給与					個人の業績や能力が大きく影響する給与
残業が多くてもキャリアアップできる					残業が少なく自分の時間が持てる
一つの仕事で専門家になること					いろいろな仕事を幅広く経験できること

問15 大学を卒業後のキャリアについてどう考えていますか。

	そう思わない	ある程度思う	そう思う
すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる			
すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない			
すぐに大学院などに進学する			
就職してから大学院への進学を考える			
資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない			
卒業後すぐには就職しなくてもよい			
最初の就職先にできるだけ長く勤める			
何年かして転職や独立をする			
結婚・出産したら仕事をやめる（女性のみ）			

[4]日常生活について

問16 今学期は、大学にはどの程度きていますか。また授業にはどれくらい出席していますか。

学期中、大学に来ている日	週に	授業への出席率	割
	日		

問17 典型的な1週間の平均的な生活時間を、学期中と休暇中の別に教えてください。

0時間	1-5	6-10	11-15	16-20	21-25	26-30	31時間以上
-----	-----	------	-------	-------	-------	-------	--------

学期中	授業・実験への出席								
	授業・実験の課題、準備・復習								
	卒業研究・実験・卒論（該当者のみ）								
	授業とは関係のない学習(趣味や資格取得等の学習)								
	サークル・クラブ活動								
	アルバイト・仕事								
休暇中	学習								
	サークル・クラブ活動								
	アルバイト・仕事								

問18 あなたは本（マンガを除く）を1ヶ月に何冊くらい読みますか。

	読まない	読む場合は	冊
--	------	-------	---

問19 あなたは、どのような友達とよく話をしていますか。

	ほとんどない	あまりない	ときどきある	よくある
コミュニケーションと自己発見のともだち				
基礎ゼミ・演習または、専門ゼミのともだち				
サークルなどのともだち				
上記以外のともだち				

[5]最後に

問20 あなたは、これまでに次のようなことを感じたり思ったりしたことがどのくらい

ありますか。

	ほとんどない	あまりない	ときどきある	よくある
生活に熱意がわからない				
友達のことでの悩みがある				
先生のことでの悩みがある				
授業の内容についていけない				
授業に興味・関心がわからない				
進級や卒業ができるか心配だ				
他の学科・大学に入り直したい				
大学を辞めたいと思うこともある				
経済的に勉強を続けることが難しい				
まわりの学生がやる気がない				
やりたいことが見つからない				
就職活動が思い通りに行かない				

問21 次のような点で本学は成功していると思いますか。また将来の本学にとって重要だと思いますか。

	現在の評価			将来のありかたとして		
	成功していない	ある程度成功している	成功している	重要ではない	ある程度重要	きわめて重要
専門分野の理論を深く教育する						
職業にすぐ役立つ教育をおこなう						
専門の基礎をなす基本的知識や考え方を教育する						
専門にこだわらない、幅広い教育を行う						

問22 本学の教育について、あなたのご意見を自由に記入してください。